

令和6年度
台南市友好交流都市締結使節団派遣
報 告 書



2024(令和 6)年 11 月 21 日(木)～11 月 24 日(日)

水戸市
公益財団法人水戸市国際交流協会

目 次

はじめに	1
台南市プロフィール	2
日程表	3
団員名簿	4
行動の記録	6
公式行事の記録	16
団員報告書	21

資料編

(1)飛虎將軍について	100
(2)交流年表	103
(3)友好交流推進に関する協定書	105
(4)公示文書「水戸街」	107
(5)台南市からの記念品	108
(6)新聞等掲載記事	109
(7)使節団募集要項	121

はじめに

2024（令和6）年11月22日、水戸市は台湾の台南市と友好交流推進に関する協定に調印しました。この協定の調印にあたり、水戸市からは高橋靖市長を団長とする総勢71名の使節団が派遣されました。この記念すべき協定の調印に市長、市議会議長、議員の方々をはじめ、50名の市民の皆さんも立ち会い、これから水戸市と台南市の友好交流に期待を寄せるとともに、両市の交流の更なる促進に向け様々な立場から携わっていく決意を新たにされました。

水戸市と台南市のこの交流のきっかけは、太平洋戦争中のことにさかのぼります。1944（昭和19）年10月12日、当時日本海軍の兵曹長だった杉浦茂峰氏が操縦する戦闘機が米軍によって撃ち落されたとき、台南郊外の集落を避けて墜落し命を落としました。それから後に杉浦氏が「飛虎将軍」として台南市で長年にわたり手厚く祀られることになりました。杉浦氏が水戸市出身であったことを契機に始まった、ドッジボールなどどもたちのスポーツ交流、2016（平成28）年2月に発生した台湾南部大地震に際しての義援金送付、同年9月には飛虎将軍のご神体が郷里の水戸に里帰りするなど、さまざまな交流が実を結んだものです。

本報告書は、2024（令和6）年11月21日から24日までにわたる使節団の台南訪問の視察内容について記録するものです。

台南市プロフィール

台南市は、台北を含む「六直轄市」（行政院の直接管轄下にある六大城市）の一つです。

【人口】 185.7万人（2023年3月）

【面積】 2,192平方キロメートル 東京都とほぼ同じ面積で、茨城県の約4分の1

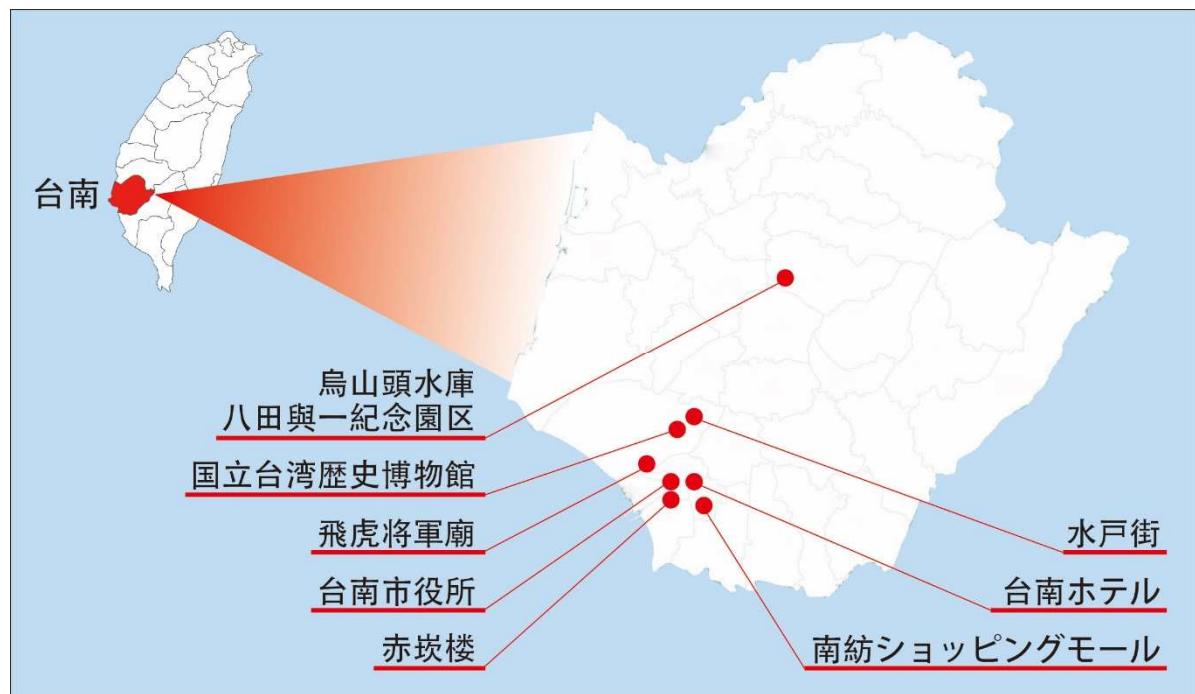
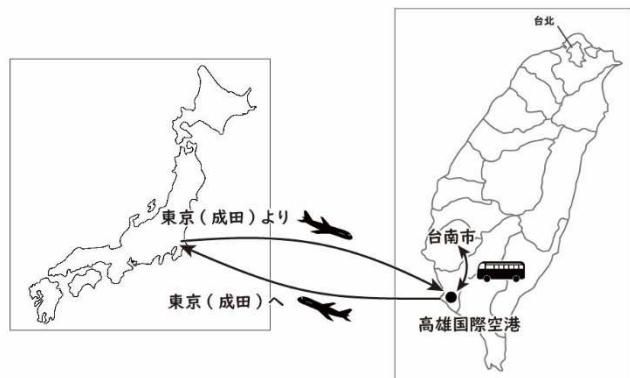
台湾島で最も早くから開けた地区の一つです。17世紀にはオランダの根拠地となり、中国で明朝の滅亡後は、鄭成功が台南を拠点に「反清復明」の運動を興しました。その後、清朝によって台湾は平定され、台南は台湾の中心として繁栄しました。

1895年に台湾は清朝から日本に割

譲され、台湾の中心は台北に移りましたが、その後も台湾南部を代表する大都市として今日に至っています。

台南市は、台湾で最も歴史があり、文化的な風土や美食が好まれ、台湾でも人気の観光地となっています。

【経路図】



日 程 表

日次	月 日(曜)	現地時間	地 名	交通機関	行 程	食事
1	11/21 (木)	7:30 8:10 10:15 13:15 時差:-1時間	水戸市役所 水戸市役所発 成田空港着 成田空港発 高雄空港着 高雄空港発 台南市内	専用バス CI 103 便 専用バス	出発式 成田空港へ 高雄へ (直行便約 4 時間 25 分) 台南市内へ <台南市泊>	昼 (機内) 夕
2	11/22 (金)	午前 午後	台南市内	専用バス	市内視察 [飛虎將軍廟、赤崁樓、林百貨店] 友好交流推進に関する協定書調印式 <台南市泊>	朝 昼 夕
3	11/23 (土)	終日	台南市内	専用バス	市内視察 [烏山頭水庫、国立台湾歴史博物館、 南紡ショッピングモール、花園夜市] <台南市泊>	朝 昼 夕
4	11/24 (日)	9:15 10:25 13:10 時差:+1時間	台南市発 高雄空港着 高雄空港発 成田空港着 成田空港発 水戸市役所着	専用バス CI 126 便 専用バス	成田へ (直行便約 3 時間 20 分) 水戸市役所へ 解散	朝 昼 (機内)

※航空会社：チャイナエアライン(CI)

ホ テ ル：台南大飯店 (Tainan Hotel)

団員名簿

(順不同、敬称略)

■団長

No.	氏名
1	水戸市長 高橋 靖

■副団長

No.	氏名
2	水戸市議会議長 大津 亮一

■市民

No.	氏名
3	秋葉 寛
4	浅川 久志
5	雨谷 精一
6	飯村 文子
7	飯村 義昭
8	池田 勤
9	石井 慎子
10	植田 修一
11	植田 みどり
12	大久保 恵美子
13	大谷 富士子
14	大橋 達也
15	大橋 久絵
16	岡田 澄子
17	岡田 広

No.	氏名
18	小川 和子
19	鬼澤 華子
20	鬼澤 央人
21	小野 明日香
22	小原 久子
23	川上 政之
24	川上 美智子
25	川又 哲男
26	工藤 幹子
27	倉澤 正樹
28	黒木 亜希子
29	黒木 雅宏
30	黒羽 徹也
31	小池 貞
32	小柴 庄市
33	坂場 恒典
34	桜井 みな
35	佐竹 弘之
36	清水 修
37	関 義則
38	高野 賢
39	高安 武雄
40	田中 一夫
41	田山 忠男

No.	氏名
42	田山百合子
43	中村友美
44	野口貴代
45	塙和紀幸
46	幡谷哲子
47	藤井雄大
48	藤本貫大
49	松本圭子
50	間部厚
51	八木岡慎
52	若山実

■水戸市議会議員

No.	氏名
53	水戸市議会副議長 高倉富士男
54	田口文明
55	須田浩和
56	黒木勇
57	鈴木宜子
58	小泉康二
59	綿引健

■水戸市国際交流協会役員

No.	氏名
60	副理事長 櫻庭紀久子
61	常務理事 増子孝伸

■水戸市執行部

No.	氏名
62	市民協働部長 小嶋いつみ
63	議会事務局長 大久保克哉

■随行職員

No.	氏名
64	文化交流課長 上原純大
65	観光課長 出沼大
66	議会事務局総務課長補佐 鈴裏郁恵
67	文化交流課係長 成澤知美
68	国際交流協会シニアアドバイザー 王偉亜
69	国際交流協会係長 川上亜希子
70	国際交流協会職員 樋村富士夫

■報道

No.	氏名
71	茨城新聞社記者 小島慧介

■添乗員

(近畿日本ツーリスト株式会社水戸支店)

No.	氏名
72	高岡琴香
73	小出順子



行動の記録



友好交流推進に関する協定書の調印式にて





11月 21日(木)

水戸市⇒台南市

- 7:30 水戸市役所 集合
- 8:10 水戸市役所 出発 (途中、高速道路パーキングエリアに立寄り)
- 10:15 成田国際空港 (第2ターミナル) 到着
- 13:15 成田国際空港 留陸 [中華航空(CI) 103便、所要時間: 約4時間25分]
- 時差: -1時間
- 16:45 高雄国際空港 到着
- 17:35 高雄国際空港 出発
- 専用バスにて台南市内へ [所要時間: 約1時間15分]
- 19:00 夕食 <「周氏蝦捲」にて: 台南小吃風味料理>
- 20:55 台南ホテル到着、解散

令和6年度台南市友好交流都市締結使節団は、
2024(令和6)年10月22日(火)に水戸市役所において結
団式を行い、11月21日(木)に出発の日を迎えた。

団長を高橋靖市長、副団長を大津亮一議長が務め、
総勢71名の使節団は、友好交流推進に関する協定を締
結するため、台湾・台南市へと出発しました。



出発



成田空港



夕食～台南料理に舌鼓



11月22日(金)

市内視察(飛虎將軍廟、赤崁樓、林百貨店)、
友好交流推進に関する協定書調印式

- 8:35 ホテル 出発
8:55 飛虎將軍廟 参詣
10:25 せつかんろう 赤崁樓 視察
11:15 林百貨店 視察
12:40 昼食 <「桃山レストラン」にて:台湾料理>
14:00 台南市役所 到着
台南市紹介動画の視聴、国際親善都市紹介展示コーナー見学
14:30 友好交流推進に関する協定書調印式 (~15:15)
15:30 台南市役所 出発
15:55 ホテル到着 ※夕食まで自由行動
18:00 夕食 <「台南ホテル」宴会場にて:広東料理>
19:50 解散

はじめに一行が訪れたのは、今回、水戸市と台南市が友好交流推進に関する協定を結ぶきっかけとなった、水戸出身の杉浦茂峰氏(通称「飛虎將軍」)を祀った「飛虎將軍廟」。無事、調印式当日を迎えたことを報告するとともに、これからの両市交流の発展を願いました。



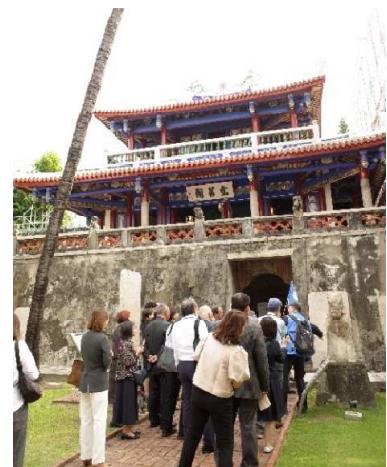
飛虎將軍廟



台南市海尾朝皇宮管理委員会の委員と

次に訪れたのは、台南市の観光名所となっている「赤崁楼」です。

赤崁楼は、1653年にオランダ東インド会社によって築城された旧跡で、「プロヴィンティア城（オランダ語で「永遠」の意）」や「赤毛城」とも呼ばれていました。その後、明代、清代を経て、19世紀には中国様式の楼閣が建てられました。日本統治時代には、陸軍病院や台湾総督府国語学校台南分校が設置されたこともあり、現在は台湾の「国定古跡」に指定されています。



赤崁楼



午前中最後に訪れたのは、レトロな建物が特徴的な「林百貨店」です。日本統治時代に山口県出身の実業家が、「台南の銀座通り」と言われた台南一の目抜き通りである台南市末広町に、当時の最先端技術を駆使した鉄筋コンクリート5階建て、台湾初の百貨店をオープンしたのが始まりです。第二次世界大戦後に百貨店は廃業し、長い間空きビルとなっていましたが、当時の技術と建築様式が高く評価され1998年に台南市の「市定古跡」に認定、修復作業を経て、2014年に再び「林百貨店」としてオープンしました。当時の趣を残した、昭和時代のどこか懐かしい雰囲気が感じられるほか、台湾南部では初めて導入されたエレベーターも大変有名です。



林百貨店

午後、台南市役所を訪問、調印式開始前に市庁舎内にある「国際親善都市紹介コーナー」を見学したほか、台南市のプロモーションビデオを観聴し、台南市についてさらに見識を深めることができました。

厳かな雰囲気の中、会場で調印式開始時間待っていると、定刻通りに前公務を終えた黄偉哲市長が会場に入ってきた。すると、黄市長は使節団員一人ひとりに名刺を配りながら握手を求め、言葉をかけてくださいました。温かな言葉と心からの歓迎の意に、団員全員が感銘を受けました。

また、黄市長からサプライズで、両市の友好交流都市の締結を記念し、飛虎將軍廟が所在する安南区に新設される道路を「水戸街」と命名することが公表されました。



台南市役所



調印式会場



台南市が結ぶ世界中の友好都市



水戸市は 57 番目の友好交流都市



11月23日(土)

市内視察(烏山頭水庫、国立台湾歴史博物館)、
商業地域視察(南紡ショッピングモール)、花園夜市

9 : 00	ホテル 出発 うさんとうすいこ
10 : 10	烏山頭水庫 視察 うさんとうすいさ
11 : 40	昼食 <烏山頭水庫内「湖境会館」にて：台湾料理>
13 : 00	烏山頭水庫 出発
13 : 45	国立台湾歴史博物館 視察 なんぽう
16 : 00	南紡ショッピングモール 視察 なんぽう
17 : 30	夕食 <台糖長榮ホテル内「長園レストラン」にて：中華料理>
20 : 00	花園夜市 散策
21 : 00	ホテル到着、解散

前日の調印式の余韻が残るなか、この日も朝から台南市を知るには欠かせない歴史的な名所や商業地域を見て回りました。

まず始めに訪れたのは、日本に所縁のある「烏山頭水庫」です。

台南市官田区(台南市中心地から約1時間)に位置し、日本の水利技術者である八田與一が建設したことで有名なダムです。烏山頭ダムが建設されたことにより、不毛の地であった台南市南部が台湾経済を大きく支える穀倉地帯となりました。八田氏の貢献は灌漑システムの整備だけに留まらず、「三年輪作法」という手法で農業改革を実行し、台湾により多くの恩恵をもたらしました。烏山頭ダムからの給水で灌漑できる土地には限りがあったことから、一年目は稲を栽培し、二年目はあまり水を必要としないサトウキビ、三年目は水を全く必要としない雑穀類の栽培をするという輪作農法を提唱しました。これにより台湾南部の平地は、米や砂糖栽培などが飛躍的に進歩し、台湾経済を大きく支える穀倉地帯となりました。

ダムまでの道のり、見えてくるのは広い平野と田畠ばかりで、およそダムがある場所のように思えない風景が広がっています。そのため、現地ガイドから「ここは既に山の中なんですよ」との説明に、驚きを隠せませんでした。



八田與一技師の妻、外代樹の像



八田與一像の前にて

次に訪れたのは、「国立台湾歴史博物館」です。

2011年に開館した同館は、「すべての台湾人のための博物館」を目指し、過去・現在・未来にわたって台湾史を伝える役割を担っています。同館内部は、「台湾をめぐる対外関係」「台湾における各エスニックグループの関係」「台湾の近代化」をテーマに、原始時代から大航海時代、日本による植民地統治時代、第二次世界大戦以降、民主化への道のりまでが精巧に作られたジオラマによって展示されており、その時代における台湾の様子・雰囲気を実感できるとともに、台湾史をより深く理解することができる作りとなっています。清朝統治末期に政治・経済の中心が台北に移った後も台湾の主要都市であり続けた台南、台湾史の重層性を映し出す街に同館が設立されたことは大変意義深いものであると言えます。



国立台湾歴史博物館



南紡ショッピングモール

続いて訪れたのは「南紡ショッピングモール」で、2015年にオープンした台南初の大型ショッピングモールです。およそ4万坪の広大な敷地を有するモールですが、日本統治時代には競馬場があり、その後台南紡織工場となりました。敷地内には、台南の紡織の歴史について知見を深めることのできる展示もあります。地元のお土産を購入。「無印良品」には台湾だけで販売する限定品も！

この日最後に訪れたのは、「花園夜市」。台南を代表する夜市の一つで、市内で最も大きく人気のある夜市です。毎週木曜日・土曜日・日曜日のみ開催し、広い敷地内には約 400 の屋台が並びます。どこまでも続く食べ物屋台を中心に、射的などのゲーム、衣料品、雑貨などの屋台もあり様々な世代が楽しめる場所で、この日も多くの人々が訪れ大変な賑わいを見せっていました。



花園夜市





11月24日(日)

台南市⇒水戸市

- 9:15 ホテル 出発
10:25 高雄国際空港 到着
13:10 高雄国際空港 留陸 [中華航空(CI) 126便、所要時間: 約3時間20分]
時差: +1時間
17:30 成田国際空港 到着
18:35 成田国際空港 出発 (途中、高速道路パーキングエリア立寄り)
20:30 水戸市役所到着、解散

日本への帰国日、あつという間の4日間でした。「水戸市・台南市友好交流都市締結調印式」が滞りなく終了し、緊張感から解放されホッと胸を撫で下ろすとともに、記念すべき日に立ち会うことができたことへの高揚感と、これから両市との交流への期待感を胸に、全員無事に帰水しました。



高雄空港

台南市との友好交流推進に関する協定を締結したことにより、両市の交流がさらに発展し、今後市民レベルでの交流が活発化することが期待されます。今後、両市との交流の中で、より相互理解を深めるとともに、協定書に掲げられている歴史・文化、教育、スポーツ、観光をはじめとする各分野において多角的な視点から交流を実践することで、相互の地域発展に繋げていけるよう取り組んでいくにあたり、今回の使節団派遣事業にご参加くださいました皆様をはじめ、多くの市民の皆様には、今後ともお力添えいただきますようお願い申し上げます。



水戸市・台南市友好交流推進に関する 協定書調印式の概要



台南市役所前にて



水戸市・台南市友好交流推進に関する協定書調印式

台南市役所 6 階プレスルーム
午後 2 時 30 分～午後 3 時

一 次 第 一

- 1 開会宣言
- 2 両市代表者紹介
- 3 挨拶
 - ・黄 偉哲 台南市長
 - ・高橋 靖 水戸市長
- 4 協定書調印
- 5 記念品贈呈
 - ・台南市から水戸市へ「蘭の飾り皿」贈呈
 - ・水戸市から台南市へ「書『忠』吉澤鐵之 作」贈呈
 - ・台南市議会から水戸市議会へ「絵画『台南市議会永華議事庁』」贈呈
 - ・水戸市議会から台南市議会へ「羽子板」贈呈
 - ・台南市民生局長から水戸市長へ「証書『水戸街』命名」贈呈
- 6 記念撮影
- 7 閉会

一 出 席 者 一

■水戸市

高橋 靖 水戸市長
大津 亮一 水戸市議会議長
ほか使節団団員 69 名

■台南市

黄 偉哲 台南市長
邱 莉莉 台南市議会議長（公務により欠席）
蘇 恩恩 台南市広報及び国際関係処長
姜 淋煌 台南市民生局長
ほか台南市広報及び国際関係処職員

■黄偉哲 台南市長あいさつ

高橋水戸市長、大津水戸市議会議長、高倉副議長、水戸市議会議員並びに水戸市民の皆様、ようこそ台南市へお越しくださいました。

台南市民を代表しまして皆様のご来庁を心より歓迎するとともに、日頃より台南市と水戸市との交流にご尽力を賜り感謝申し上げます。



ここで、本日この調印式に同席をしております職員をご紹介いたします。
姜淋煌民生局長と蘇恩恩広報及び国際関係処長です。

まず初めに、水戸市と友好交流都市の協定を締結できることを大変嬉しく思います。これまで台南市と水戸市は、様々な民間交流を続けてまいりました。そして、水戸市とは、本市にある飛虎將軍廟の主祭神である杉浦茂峰氏の故郷として、かねてより親密な関係を築いてきており、文化交流のみならず、学生交流を毎年行うなど、両市は良い関係を作ってまいりました。

今年、台南市は市制施行400年を迎える、年始から様々な記念イベントを開催してまいりました。水戸市におかれましては、本市の記念行事に対しご支援を賜り感謝申し上げます。

本日の調印を機に、今後の台南市と水戸市が、文化・スポーツ・農産物などの面において幅広い交流を促進していくことを願っております。

また、両市の市民や学生との相互訪問なども進められるよう心より願っております。

ここで、皆様にご報告したいことがございます。昨日、私は、両市の深い友情を記念し、飛虎將軍廟がある安南区内の新しい道路を「水戸街」と命名することを決定する文書に正式に署名いたしました。近い将来、安南区内に新しい道路を建設予定です。友好交流都市の拠点として、文化、観光・学術などの面で、より総合的で深い交流が図れることを期待します。

後ほど、台南市民生局長より、「水戸街」と命名した公文書の写しを高橋市長に贈呈いたします。

改めまして、皆様のご来訪を心より歓迎するとともに、台南市と水戸市の友好と皆様のこれから益々のご健勝をお祈り申し上げます。

また、台南市での滞在が皆様にとって有意義なものでありますよう祈念いたします。台南市内には日本に所縁のある場所が多く残されておりますので、ぜひ滞在中に訪れていただけましたら幸いです。ありがとうございました。

■高橋靖 水戸市長あいさつ

親愛なる黄偉哲市長をはじめ、台南市の皆様方にまたお会いできる機会をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

1月の訪問の際も、そして8月にお伺いした時も熱烈な歓迎をいただき、本当にありがたく思っております。

また、このたび、友好交流都市の締結にあたりましては、黄偉哲市長をはじめ台南市政府の皆様方に、特段のご配慮をいただきましてこの日を迎えたこと、大変有難くまた嬉しく思っております。

水戸市は27万人という小さな都市でございますが、180万人を超えるまさに台湾を代表する大都市と友好交流都市の締結ができるということを大変光栄に思っております。

しかも、今年は台南市が誕生して400年の記念すべき年であるということで、そうした年に友好交流都市の締結ができますことを大変嬉しく思っております。

また、本日は11月22日ということで、日本では「いい夫婦の日」と申しまして、仲の良い夫婦を記念する日でもあります。お互いの絆を確認し合う、深めていくという、(両市の友好を結ぶに)相応しい日に、こうして調印ができますこと大変嬉しく思っております。

今日午前中には飛虎將軍廟を参拝させていただきまして、神前に本日無事に締結を迎えることを杉浦茂峰氏にしっかりと報告させていただきました。

また併せて、(飛虎將軍廟)管理委員会の皆様方と懇談をさせていただきまして、今後もこうした歴史的交流をしっかりと続けていこうということも確認をしてきたところでございます。

さらには、安慶国民小学校の校長先生もいらっしゃいまして、今後、安慶国民小学校と杉浦茂峰氏の出身校でもあります五軒小学校と、これからこどもたちの交流を深めていこうということも確認させていただいたところでございます。

今月11月7日に、胡(忠一)政務次官をはじめ台湾農業部の農業関係者の方々が水戸にお越しくださいまして、いろいろ懇談させていただきました。

その中で、今後も台湾の果物を茨城県のこどもたちの給食に出していくという話をしまして、翌11月8日には茨城県内18市の小中学校で台湾産のバナナを提供し、こどもたちに大変喜ばれました。

これからも水戸市では、こどもたちの給食に、台湾産の果物を積極的に使っていきたいと思っております。特に、台南市のマンゴーを、ぜひ水戸のこどもたちに食べさせたいと



いう思いもございますので、そういう交流もできれば嬉しいなと思っており、黄市長のご協力もいただけましたら幸いです。

昨日から台南市に入りまして、非常に街の活気というものを感じました。本日は、ロータリークラブやライオンズクラブの皆さんも来ておりますし、また既に台湾で事業を始めている方もこの中(使節団)にいらっしゃいます。そういう経済的な交流も深めていきたいなと思っておりますし、また街づくりの中で、台南市が行っている「デジタル街づくり」や「歴史景観づくり」などを見習わせていただけたらと思っております。

水戸の近郊にあります茨城空港から、台北に向かう飛行機が定期便で飛んでおりまして、台湾は非常に近い国ですので、これから観光交流の方も積極的に進めていきたいと思っておりますし、経済・文化・歴史そして青少年の健全育成に資するような交流なども進めていければと思っておりますので、また引き続き、黄市長の特段のご配慮をいただけましたら幸いです。

今回の友好交流都市締結を契機といたしまして、これからもっともっと色々な交流を深めながらお互い両市の発展に資するような取組みを行ってまいりたいと思っております。

最後になりますが、台南市の益々の発展と、そして黄偉哲市長をはじめ台南市の皆様方の益々のご多幸を心からお祈り申し上げて、御礼の挨拶に代えさせていただきたいと思います。謝謝。



高橋水戸市長と姜台南市民生局長 「水戸街」命名証書の贈呈



団員報告



烏山頭水庫にて



国際交流の新たな歴史のスタートとなった台南市訪問

水戸市長 高橋 靖

71名で構成された台南市友好交流都市締結使節団の団長として台南市訪問に参加させていただきました。

まず、最初の公式プログラムは飛虎將軍廟の視察及び参拝です。

この度の台南市との友好交流都市締結のきっかけとなったのが飛虎將軍廟の存在です。

終戦間際に、水戸市出身のパイロット杉浦茂峰少尉（当時は兵曹長）が操縦する戦闘機はアメリカ軍機から被弾しました。

脱出装置を使いパラシュートで着地すれば助かった可能性がある中で、杉浦少尉は戦闘機が集落に向かって墜落したら大きな被害が出ると考え、機体を大きく旋回させ、畑に墜落して亡くなっています。

地域の方々は杉浦少尉を命の恩人として「飛虎將軍」と名付け「飛虎將軍廟」を建立して神として祀り、永年にわたり顕彰していただいているのです。

そのことから民間交流が始まり、飛虎將軍の里帰りイベントやこどもたちのドッジボール交流など、様々な相互交流を進めてきました。

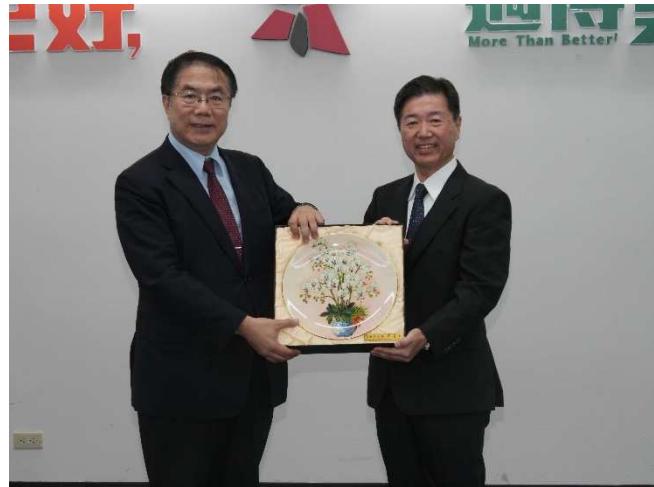
参拝では友好交流都市締結を神前に報告し、飛虎將軍の管理団体である台南市海尾朝皇宮管理委員会の呉会長をはじめとする役員の皆様と今後の交流について確認いたしました。

また、飛虎將軍廟の近隣にある台南市立安南区安慶国民小学校の羅校長もお見えになり、杉浦少尉の母校である水戸市立五軒小学校との交流についても推進していきたい旨のご提案をいただきました。

これからもこれら歴史的つながりを大切にしながら、台南市海尾朝皇宮管理委員会の皆様や地元小学校との交流を推進し、青少年の健全育成や国際感覚の醸成につなげていきたいと考えています。

続いて使節団最大の目的である友好交流都市締結調印式に臨みました。

水戸市出身の杉浦茂峰少尉が台南市において飛虎將軍と称され神として祀られていることをご縁に始まった民間交流は、いよいよ行政同士の交流に発展いたしました。



調印式は使節団全員が見守る中、黄偉哲市長はじめ台南市政府関係者の皆様のご出席のもと、厳粛に執り行われました。

水戸市では学校給食で台湾産バナナの提供を始めています。

今後は台南産果物の提供についても可能性を探っていきたいと思います。

茨城空港から台北便も運行されており、台南市と水戸市も交流が進めやすい環境もあります。

今後とも観光、経済、歴史文化、教育、スポーツなど様々な分野で交流を推進していきたいと思います。

そして両市の発展とともに、多文化共生社会の構築、さらには国際平和の樹立にも寄与していきたいと考えています。

この度の友好交流都市締結にあたりご尽力をいただきました黄偉哲市長はじめ、台南市政府関係者の皆様に心から御礼と感謝を申し上げます。

調印式において、台南市側から飛虎將軍廟近隣の道路を「水戸街」と名付けられることがサプライズで発表され、その認定証を交付していただきました。

特段のご配慮をいただき、心から感謝申し上げます。

この度の訪問にあたり力不足の団長ではありましたが、使節団の皆様のご協力により大きな成果をもって帰国することができました。

使節団すべての皆様に心から感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

ありがとうございました。

台南市・水戸市にとって、未来へ共に歩む新たな出発点

水戸市議会議長 大津 亮一

毎年11月22日は日本において「いい夫婦の日」として広く知られておりましたが、2024年11月22日は、台南市と水戸市の間で友好交流都市が締結され、今後も末永く有意義な友好交流関係を築くうえで、誠にふさわしい記念の日となりました。

水戸市では、第7次総合計画一みと魁・Next プランを策定し、令和6年度を初年度として具体的な施策が進められております。この計画の中では、「誰もが平和への意識を持ち、多様な国籍や文化を理解し、お互いを尊重するまち」の実現に向けて、平和活動・国際交流・多文化共生の推進が掲げられております。アメリカ・アナハイム市とは再来年で国際親善姉妹都市締結50周年、中国・重慶市とは来年で友好交流都市締結25周年をそれぞれ迎えます。グローバル化が進展する中、市民や学生を主体とした国際交流活動は年々広がりを見せており、新たに台南市との友好交流都市締結が加わることで、より一層の推進と新たな分野での発展が期待できるところです。

私は、このたびの台南市友好交流都市締結使節団において、副団長を仰せつかり、さらには水戸市議会を代表して、高橋靖水戸市長とともに協定書に署名するという大役を務めさせていただきました。水戸市政のあゆみに残る大きな記念事業に携わることができた喜びとともに、責任の重さを感じております。

両市の交流事業においては、互いの歴史や文化の理解が深まり、スポーツなど官民様々な交流活動の進展が図られることに留まらず、台南市の主要産業であるバナナ、パイナップル、マンゴー、蜜柑等の農産物の活用やインバウンドによる交流人口の増加に伴う観光業など、経済面での大きな効果や、グローバルな視点に立った戦略的な施策の展開が期待できます。本市議会といたしましても、両市議会の絆をより深めるため、積極的な交流事業等の取組について決意を新たにしたところでございます。

締結に当たりましては、これまで長い期間にわたり、杉浦茂峰氏を祀った飛虎將軍廟との交流活動に御尽力いただいた関係者の皆様、ドッジボール競技を通じて親交を深めて来られた水戸市ドッジボール協会の皆様、水戸市国際交流協会の関係者の皆様等の献身的な活動が実を結んだものであり、台南



市との国際交流活動に御支援、御協力をいただいた全ての方に敬意を表し、御礼を申し上げる次第です。

両市の今後益々の発展とさらなる絆の深まりをお祈り申し上げ、友好交流都市締結に係る台南市訪問の報告といたします。

飛虎將軍と万善堂

秋葉 寛

「水戸市からのこういう募集があるが興味ある？」孫に聞くと「行きたい！」と即答。とは言え八十まだかの拙者が小学5年生の面倒をみるに些かの不安を覚え、彼の母親も誘う。斯くて親子孫三代での参加が実現した。

友好交流都市締結式では、台南市長自らが各団員に名刺を手渡し握手をしてくれた。式の前後も含め、好意に満ちた式典だった。

早朝の散歩で訪れた国立成功大学のキャンパスの、学問の府としての豊かな佇まい。夜の十時過ぎに、湯徳章記念公園や王育德記念館の周辺を散策した際も、治安に不安を感じる事なく楽しめた台南の中心街。深く印象づけられた事は枚挙にいとまがない。

参拝を待望していた飛虎將軍廟は、予想を遥かにしのぐ豪華絢爛さで、堂をお守り下さる人々の大歓迎も受けた。水戸の銘菓「水戸の梅」を持参した旨を伝えてもらうと、快くお供えいただけた。堂守の方々と共に、杉浦茂峰青年にも舌鼓を打っていただけたか？

司馬遼太郎氏の著作『街道をゆく 40 台湾紀行』の中に「万善堂（行き倒れの人骨を集めて供養するお堂）が、どんな田舎にもある」とある（新版P269～）。台湾の人達の善行が飛虎將軍に対して特別なものというよりは、長い歴史に裏打ちされていて、司馬氏の「万善堂は台湾の心そのもののように思えてくる」に、むべなるかな！と感じ入った次第。



台南の人達からの、心にしみる貴重な体験と無言のメッセージは、しっかりと受け止めて、後々の世代へ引き継いでゆかねば！と強く思った。

＜欲究千里目 更上一層樓＞

台南市との交流を経て

雨谷 精一

私が水戸市酒門町の善重寺の責任役員を務めておりますことから、同じ寺の門徒で親の代から親交があり大変お世話になっている岡田広先生のお誘いも頂戴し、今回の高橋靖市長を団長、大津亮一市議会議長を副団長とする台南市友好交流都市締結使節団に参加することになりました。

思い返しますと、昨年の3月に善重寺の境内の見晴らしの良いところへ、昭和天皇（当時、摂政）が台湾でお手植えされた桜の木の苗木が日台友好の証として植樹されました。その植樹式当日には台湾の駐日代表にあたる謝長廷代表の来駕を仰ぎ、来賓としていらっしゃった高橋市長や岡田先生らと一緒に植樹されました。式後、レセプションもあり、その折に岡田先生から「台南市との友好交流都市締結を執り行うために、近く台南市へ調印式に伺う使節団員を公募するので一緒に行きましょう」というお声を掛けていただきました。その植樹の晴れの日の雰囲気がとても素晴らしい上に、私自身も台南市を訪れて締結の瞬間を共有し、各所を視察して台南の風景を楽しみたいと思ったことが、今回の使節団参加のきっかけでした。

調印式は日程の2日目でありました。当日午後2時30分に団員を乗せた2台のバスが台南市役所に到着しました。水戸市は国外では2都市と交流をしており、私が市議会議員現役の時の岡田広市長時代に重慶市と締結されましたので、24年ぶりの協定締結となりました。色々なことが思い出される中、まず庁舎内にある友好都市を紹介した広い展示スペースを案内され、同じ階の広い議会室へ通され団員一人ひとりネームプレートが貼ってある椅子に座り、ここが調印式の会場であることがわかりました。しばし式の始まりを待つことになり、台南市の産業や文化を紹介したビデオ上映を観たりしていました。式が始まると両市長の挨拶があり、黄偉哲市長が冒頭に日本語で「市民を代表して歓迎します」と挨拶され、その後通訳を介して、新設される市内に新しく造られる道路を「水戸街」と命名し認定証を交付したことが会場内に知らされると、そのものすごいサプライズにそれまで少し緊張をしていたのですが、驚きと喜びで胸がいっぱいになりました。続いて両市長、水戸市議会議長が協定書に調印される場面を見守りました。

式典の冒頭で、黄市長自らが団員の席を回り丁寧に挨拶されながら名刺交換を交わす場



面があり感銘を受けました。また、両市長と大津議長の座る壇上の壁には「做得更好 過得更好」と大きな飾り文字が掲げてあって、台南市役所の職員さんにお聞きしてみると、「もっとよくする よりよく生きる」という意味であるとわかりました。その時に振舞われた瓶入り果汁ジュースのなかなか日本では味わえないほのかな酸味と甘さが忘れられません。また台南市で獲れる「青皮椪柑(ポンカン)」を1個頂戴し、宿に持ち帰って頂きました。その他にも友好の品々をくださいました。この調印式では、台南市185万人の市民を挙げて水戸市の使節団を熱烈に歓待してくれていると感じ入るとともに、台南市側の細やかな気遣いに大変感動いたしました。

台南市はこれまで56の都市と締結していると展示パネルで知りましたが、水戸市と締結したこの年は「台南400」と銘打って鄭成功的業績を称え、台南市が古都と言われる所以である貿易拠点の城が築かれてから400年の節目だということでした。先日、アメリカのニュースサイトCNNが発表した「世界の訪れるべき場」として、台南市が台湾から唯一選ばれています。歴史や食べ物、温暖な気候がそろった台湾最古の都市である台南市が、世界から注目を浴びている特段良い時期に友好交流都市を締結できたことは喜ばしいことであり、台南市の益々の発展を団員の一人として願っております。

旅程中、台南市の名所を巡りましたが、特に台南市の官田区にある烏山頭ダムが記憶に残ります。石川県出身の技師八田與一氏の遺した世界有数のダムを見学できたことは有意義でした。貯水量1億5千万トンで農業の発展を支えたことはもちろん、完成当時にはその恩恵で浄水環境も向上し、伝染病が一気に減少したことありました。大規模な堤防下は記念公園になっていて、その一角に八田氏の住まいが復元されていました。その中は資料館になっていてパネルなどの展示があり、書斎も忠実に再現されていました。本棚には親鸞聖人の伝記があり、金沢出身ということで彼も真宗門徒であったのだろうと推察しました。そして、日本統治下時代に台湾に渡り偉業を成し遂げた人物を知り、顕彰することの大切さを肌で感じました。帰国後、同行した藤本住職から八田氏の孫に当たる八田修一氏が横浜に居られて、日本人として台南の方と共にこのダムを世界遺産にするべく運動されていることを伺いました。国際情勢の壁を越えて実現することを切に願いたいと思います。

また、締結式の日の夕方には自由時間があり、昭和天皇が皇太子(摂政)時代にお手植えのガジュマルを見に行こうということで、宿から徒歩15分程の成功大学に行くと、そこには立派な大木が大切に保存され、碑も建てられていました。この木は大正12年に植えられたもので、樹齢100余年でこんなにも大きくなるのかと感心しました。そしてこの木がこれまで烏山頭ダムの完成をはじめ、台南の発展をずっと見守ってきたのだと思うと熱いものがこみ上げてきました。これから台南を訪れる方にはぜひご覧いただきたいものです。

この度は、正副団長の引率の下、団員全員が無事に旅程を終えることができ、また、団員同士が親睦を深められましたことに対して、携わられたすべての方々に深く感謝申し上げます。



台南市友好交流都市締結使節団に参加して

池田 勤

この度は水戸市の「台南市友好交流都市締結使節団」に参加をさせていただき、誠にありがとうございました。

私はこれまでに台湾への旅行歴がなく、今回初めての訪問となりましたが、台湾、特に台南市は町の景色も美しく、ほんの少しだけ触れ合うことのできた市民も親切丁寧で、近いうちに再度訪問したくなる魅力的な土地でありました。

しかも今回の旅行は、水戸市の使節団の一員としてであり、おそらくこのような機会がなければ知ることができなかつた飛虎將軍廟のことや、台南市役所への訪問など、非常に貴重な体験もさせていただきました。特に飛虎將軍に関して、水戸出身の軍人が台南の地で非業の死を遂げたこと、その際に台南郊外の集落を火の海から守るために、自らを犠牲にして郊外まで飛行機を操り、街を救ったことなど、水戸市民ながらこれまで知ることなく、さらには、台南市民が廟を作り奉り、朝な夕なに「君が代」と「海行かば」をうたい、線香とたばこを供えていただいていることにも感激をいたしました。

また、八田與一氏が設計した烏山頭ダムについても、台湾の人が日常的に観光地として訪れ、家族とともに旧八田住宅などを見学している様子を見て、「ああ、この国の人々は本当に戦争中の不幸な歴史はあったものの、日本人に対して、これだけ大切に思っていただいているのだな」と感じました。



帰国後、飛虎將軍のことを著わした『君と共に空へ飛ぶ』という小説を読む機会がありました。次回また台湾を訪れるときは、台南を訪れ、本の中に書いてある場所を辿ってみたいと思いました。

最後に、このような機会をお与えいたいたい皆様に、心よりの御礼を申し上げます。

台南市訪問と人との出会いに感謝

大久保 恵美子

一人での参加だから、「中国語だけでなく、もしかしたら日本語も話さず時間が過ぎてしまうかもしれない」と今となっては笑える覚悟であった。台南市友好都市締結使節団の団員という普段ではできない体験をし、さらに台南市の日本人ゆかりのある観光地等を巡った。特に印象的なところは、飛虎將軍廟である。飛虎將軍こと海軍パイロットの杉浦茂峰氏の偉大さを知り、「君が代」、「海行かば」、「ふるさと」を参加者で歌った。日本人として誇りに思うと同時に、戦争の悲惨さに大きな悲しみも感じた。

調印式本番、前日の慣れない、飛行機などの移動疲れが残っている状況で、台南市役所に向かった。緊張しながら、台南市長の黄偉哲さんを待ち受けていると、なんと水戸市側の出席者全員に名刺を手渡しながら挨拶をして回ってくれたのだ。これには、本当に驚いた。移動疲れが吹き飛んだ。そして高橋靖市長の友好交流都市として深く長く関わり続ける考えに心をつかまれ、使節団の一員として参加できたことを大変誇らしく思った。

今回の参加者は全部で 71 名という大所帯であった。締結式参加が目的であったが、とにかく人との出会いがたくさんあった。水戸市役所からバスに乗り込んだ際に隣に座った A さん。気さくに話しかけてきた。「これも出会いだよね」と笑って話していたが、A さんとは滞在中ずっと一緒に安心できたり、楽しかった。出会えたことに感謝している。A さんは台湾旅行経験者で、治安も良いことだし積極的に現地の方に話しかけてみては、とアドバイスをくれた。勇気を振り絞って一人でホテル周囲を散歩し、コンビニで買い物をした。店員さんは早口で「○△#★～嗎」と言った。「袋はいるのか」って言っていたのか、いまだに不明のままである。

花園夜市では、タピオカミルクティーを購入すると決めていた。行列の最後尾の高校生ぐらいの女子に思わず、「並んでいる？」と咄嗟に日本語で言った。女の子はうなずいたが、気持ちが伝わっていたのかな。購入時は「珍珠奶茶」と言えば買えるかと思ったら、きっと日本で言えば特選何とか、限定何とか言うようなメニューで全くわからない。先程の女の子に、これはなんて読むのか聞いた。値段も教えてくれた。55 元とのことでジャラジャラと小銭を出すと 1 元多かったので、女の子は 1 元を財布に戻してくれた。私は「謝謝、謝謝」とお礼を言った。いざ自分の順番になって何も注文していないのに、目当てのタピオカミルクティーが出された。どうやらさつきの女の子が、店員さんに注文してくれていたのだ。温かい気持ちになった。「非常感謝」と言いたい。

最後の夕食では、ロータリークラブの方々と食事を囲んだ。今回大人数ということもありお話しする機会がなかったにもかかわらず、楽しくお話ししてくれ、私はちやっかり白

ワインをご馳走になった。夜市で小籠包とタピオカミルクティーを購入するのが目標だと言つて夕食は控えていたためか、夜市訪問後に購入できたかと心配してくれた。本当に体も心も温かくなった。

台南市友好都市締結使節団の団員という経験とともに様々な人々との出会いが素晴らしい思い出となった。このような機会を提供してくれた水戸市、水戸市国際交流協会、そして参加者の皆様、ツアーコンダクターの方々、台南の皆様「非常感謝！」



台南市使節団に参加して

岡田 澄子

この度の台南市友好交流都市締結使節団に一員として参加しました。

調印式の前に、市内視察で台湾風のきらびやかな「飛虎將軍廟」を見学しました。ここには日本人が神として、水戸市出身の杉浦茂峰少尉が祀られています。

第二次世界大戦の時に台湾に駐留していた杉浦さんは、米軍が台南・高雄を空襲したため迎撃したそうですが、被弾してしまいました。杉浦さんは「集落に墜落したら一大事だ」と機首を上げて畳に墜落炎上し戦死したそうです。

「飛虎將軍廟」は、多くの信者からの奉獻で再建、運営されています。杉浦氏が自分の生命を犠牲にして住民を守ったその行為に多くの信者が集まり、郷土の総鎮守神として大切に祀られています。朝晩7本の煙草を献上、「君が代」を斎唱し、「海行かば」を歌い杉浦さんを参拝してくださっています。経机の両側には日華両国の国旗が立ててあり、廟は両国の文化交流にも貢献しているそうです。

台南市庁舎での締結調印式では、
黄市長さんが、私たちの席を回って
一人ひとりに名刺をくださいました。
70人余りもいるのに、なんとい
うお心遣いでしょう。胸が熱くなり
ました。

この使節団に参加しなければ「飛
虎將軍」を知る機会もなかつたでし
ょう。台湾の皆さんとの優しさや温か
さに触れることもなかつたでしょ
う。

台南市で飛虎將軍廟を守ってくださっている市民の皆さんや、市長さんの振舞いに感
動、感激したことを忘れず、あたたかな人間愛を持って、人と接していきたいと思いま
す。

この台南市使節団に参加することができ感謝申し上げます。



台南市を訪問して

岡田 広

水戸市五軒町（旧茨城県信用組合農林水産部の建物）に生まれた杉浦茂峰さんは五軒小学校を卒業後、筑波海軍航空隊で飛行訓練を受け、台湾の高雄海軍航空隊に配属され、台南市上空で米軍戦闘機と交戦し被弾、眼下の集落への墜落を避けるため郊外に向けて機首を上げ街はずれの畠の中に落ちて行き、20歳と11か月の若さで亡くなりました。自らを犠牲にして台南の街を守った行為に多くの台南の人々が感動し「飛虎將軍廟」を建設し、杉浦氏を祀っていただいている。そんな縁で水戸市と台南市（180万人の人口）との友好交流都市協定が締結されることになり、高橋靖市長を団長とする訪問団71名が台南市を訪問しました。



飛虎將軍廟で「君が代」「海行かば」「ふるさと」を斉唱し、杉浦茂峰少尉の靈に敬意と感謝を表しました。その後、台南市役所の会議室で黄偉哲市長との協定調印式が行われました。黄市長は会議室に入ってくると高橋靖市長、大津亮一議長と握手をし、他の団員一人ひとりに名刺を配り握手をして歓迎の気持ちを示してくれました。黄市長の行動には私をはじめ全員が感動、感激をしたのではないかと思います。

挨拶の最後に「台南市と水戸市の交流が未来永劫に続くように」と「水戸市の小中学校の教科書に杉浦さんという水戸出身の人が21歳足らずで戦争で亡くなつたこと、台南の街を救ってくれて神様になって祀られていることを教科書に載せてもらい、水戸の子供たちにも知つてもらい、友好親善の輪が未来へと続くことを願っています」と挨拶をされたことに感動を覚えた台南訪問でした。

台南市友好交流都市締結使節団に参加して

小川 和子

11月21日、高橋靖団長のもと71名の参加者は2台のバスに乗り、市役所の方々の見送りを受け、一路、台南市に向かいました。天候に恵まれ、台南は少し暑い日が続きました。

2日目の22日は、この友好交流都市締結の契機になった飛虎將軍廟の参拝からスタートしました。飛虎將軍廟には、水戸市出身の杉浦茂峰兵曹長が祀られているのですが、そこで、日本では見慣れない特徴的な建物の造りや中のお飾り、お参りの作法を教わったことを皮切りに、これから行く視察の先々では、何もかもが驚きと発見の連続でした。

昼食後、いよいよ私たちは台南市庁舎で、友好交流都市締結調印式に臨みましたが、その式の中で台南市の黄偉哲市長は私たち団員一人ひとりと挨拶をしてくださり、和やかに調印式に立ち会うことができたことは、本当に貴重な体験となりました。そして、黄市長から市内に新しく作られる道路に「水戸街」と名付けられることが発表され、団員の皆で感激しました。また、団員の藤本貴大住職から、ホテルから歩いて15分程のところにある成功大学キャンパス内に昭和天皇お手植えの樹齢100年を超えるガジュマルがあるので一緒に見に行こうという誘いを受け、夕食前の自由時間に現地ガイドの木村さん案内の下、立派な大木を見ることが出来、感慨深いものがありました。

赤崁楼の視察では、オランダ統治時代の台南市の歴史を知ることが出来ました。また、八田與一記念公園の中には当時の住居が再現されていて、館内では烏山頭ダムを造った功績や人柄等が分かる展示物があり、それらを通して台南で偉業を成し遂げた八田與一についてよく理解することができました。その後、烏山頭ダムの堤防を歩いて、その広場にある八田與一の銅像の前に立った

時には感慨無量になりました。

そして、国立台湾歴史博物館の視察では、台湾や台南市の歴史を日本語の案内ガイドもあり、分かりやすく学ぶことが出来ましたのでたいへん有意義でした。

私事になってしまいますが、この日の夕食の折、高橋市長と団員の岡田広さんの采配で、使



節団の皆様から喜寿の誕生日のお祝いをサプライズでしていただき、本当に素敵なお誕生日を過ごすことが出来ましたこと、とても感謝しています。その様子を、一緒に参加していた数名の団員から私の息子のもとにLINEで写真が送られていたようで、帰国後にそのことを知りました。私は滞在中、家族に一度も電話等の連絡をしていませんでしたが、家族は高橋市長のブログをチェックしていたようで、毎日の私たちの様子が手に取るように分かると言って安心していました。今回だけに限らず、高橋市長のブログはいつも家族で拝見していて、その記事のアップの速さと内容の素晴らしさに感心しております。この夕食後に、今回最後の視察になる花園夜市に行きますと、台南の人たちが、数百並ぶ屋台でそれぞれ射的やコリントゲームを楽しんだり、臭豆腐を食べたりしているのを見て、どこか懐かしい気持ちにもなりましたし、その賑わいからパワーをもらいました。

このような貴重な体験をさせていただき、高橋水戸市長をはじめ水戸市国際交流協会、近畿日本ツーリスト、使節団参加の皆さまには大変お世話になりました。この使節団での学びは、私の住んでいる浜田地区の皆さまに、これからも様々な場所で伝えていくつもりです。今後、水戸市民として、台南市と水戸市が、様々な分野で交流されることを本当に楽しみしております。



使節団報告書【3泊4日を振り返って】

小野 明日香

○11月21日（木）

朝は早すぎない集合時間だったため、余裕を持って過ごすことができました。また、高速バスが成田空港に到着してから、フライトの時間までたっぷりあったので、空港内をじっくり見て回れたのもよかったです。チャイナエアラインの機内設備・サービスは想像以上に素晴らしく、暇を持て余しがちな飛行時間も全く苦ではありませんでした。

ただ、やはり台南市は遠いですね。おそらく台南というのは「台北で数日過ごした後、台湾高速鉄道に乗って台南へ」とか、「高雄を観光した次の日は台南へ」といった具合に、台南だけを巡るのではなく、他の都市とセットで訪れるのがメジャーな観光の仕方な気がします。それをたった1日で、日本から一気に台南市へ向かったのですから、ホテルに到着したときはさすがにヘトヘトになりました。しかし、滞在するホテルがとてもきれいな客室で、ゆっくりと体を休めることができました。

○11月22日（金）

いよいよ飛虎将軍廟へ。御廟では、飛虎将軍がどういう人物で、どのような人生だったのか説明を聞きました。御廟の床は塵一つなく掃き清められており、狛犬のような獅子像たちが真新しい赤いリボンを纏っている様子に、台南市の方が使節団を歓迎している様子を感じ取ることができて嬉しくなりました。色が抜けて白っぽくなっていたり、ボロボロになっているリボンを付けていたりする獅子像もあるそうですが、大事にされている飛虎将軍廟の獅子たちは、どこか誇らしげに見えました。

そんな飛虎将軍廟の参拝で、一番心に残ったのは「ふるさと」の斎唱です。漠然と知る程度だった杉浦茂峰少尉の詳しい生い立ちを聞き、そのあとに歌った「ふるさと」は胸に迫るものがありました。最後に歌ったのがいつなのか、思い出せないほど昔だったため、まずは歌えるかどうかが心配でした。そんな状況でしたので、歌詞を印刷してくださったのは本当に助かりました。この曲を学校で歌っていた頃は親元にいて、何の心配もなかつたであろう自分にとって、「ふるさと」はただの「音楽の教科書に載っている曲のひとつ」に過ぎませんでした。しかし、大人になって地元を離れ、ふとしたときに感じる寂しさや恋しさ。年を重ねてみると全く違う感性で歌詞が読め、心に染み入る斎唱でした。特に3番の歌詞は杉浦少尉のことを投影せずにはいられない内容で、ご無念はいかばかりだったのかと思うと、涙がじわりと滲みました。じっくり歌詞を見たのも何十年ぶりで、こんな素敵な歌詞だったのかと、日本語の美しさにも改めて感動いたしました。

「こころざしをはたして いつの日にか帰らん 山はあおき故郷 水は清き故郷」

二番目に訪れた赤崁楼は、台南市のシンボリックな場所の一つですが、残念ながら海神廟は工事中でした。その海神廟の真横にあった大きな石碑ですが、この碑を説明するとき、ガイドの方が「石碑の下にいる大きな亀」と言っていた気がします。しかしながら、その生き物は龍の子とされる鼈^{ひき}でした。ガイドの方は、亀と伝えた方が分かりやすいと思われたのかもしれません。ただ、見た目は亀とそっくりでも、まったく異なる伝説上の生き物で、馴染みがないものだからこそ、きちんと鼈について説明が欲しかったところです。この石碑は乾隆帝が贈ったものとして貴重なのですが、たとえ内容が分からなくても、デザインを見るとこれらがとても重要なものだということに気付けます。着目するのは龍の爪。石碑に彫られた龍には爪が5本ついていました。5本爪の龍をデザインとして使えるのは皇帝だけなので、この石碑の重要性が分かります。旅行前に訪れる場所をYouTubeなどでチェックしていましたが、やはり現地で本物をじっくり見られたからこそ、気付けるものが沢山ありました。

林百貨店は当初スケジュールになかったので、日程表が配られたときは正直とてもがっかりしていました。それが思いがけず行けることになったので、本当に嬉しかったです。趣のある建物の中には厳選された様々な商品があり、すべて見るには時間が足りませんでした。特に1階は台南市の定番土産や百貨店オリジナル商品が多く並んでおり、もっとリサーチしておくべきでした。台湾を訪れるたびに食べ比べをしているパイナップルケーキですが、ここで買ったパイナップルケーキ（奇美食品_CHIMEI）が人生で一番美味しかつたです。私たちのような団体客が入ると、スタッフの方が全員レジ業務に入っていたので、品物がなくなっていても補充まで手が回らない様子でした。ここはお目当てのものがあったら、早めに手に取っておいた方が良さそうです。買い物に夢中になって、林百貨店の外観を写真に収められなかったことだけが悔やまれました。

いよいよ、この旅行の山場である友好交流都市締結式。まるで国際会議が行われるような部屋に通され、席には一人ひとりの名前が飾ってありました。協定書が交わされ、水戸市と台南市の歴史的な瞬間を目に焼き付けながら、思い切ってこの使節団に参加してよかったですなあとしみじみしておりました。驚いたのは、台南市の友好交流都市の数！水戸市が57番目だなんて、こんなに多くの交流都市がある市というのも珍しい気がします。水戸市には、他の都市が霞むくらい、台南市と積極的に交流を深めていってほしいものです。

締結式を無事終え、16時頃にホテルに到着すると、夕食まで自由行動でした。ホテル周辺を散策したかったので、この自由時間はとてもありがたかったです。今回の旅行で知り合ったOさんと一緒に、まずは入浴剤を求めてドラッグストアを訪れました。ラッキーなことに、「買一送一」（1つ買うと1つオマケ）対象商品になっていたため、お得に購入することができました。実はこのとき、購入する際に分からぬことが少々あったのです

が、現地の方がわざわざ会計時に、こちらの希望などをレジの方に説明しに来てくれたおかげでスムーズに購入できた背景があります。お出かけ 1 店舗目から、台湾の方の優しさに感激してしまいました。現地の方とコミュニケーションを取る際は、案の定、Google 翻訳が一番使用する機会が多かったです。英語が分かる方ばかりではないので、お互いに翻訳を駆使してコミュニケーションを取るのが基本スタイルでした。また、商品パッケージなどに書かれている文字は、Google レンズを使って日本語に変換していました。

市内を気の赴くままに歩き、「歩道だけど半分はバイクに塞がれているね」とか、色々な発見をしながら散策を楽しみました。ホテルに向かう大通りを歩きながら、ふと路地に目をやると、手書きで書かれた「葱抓餅」の看板が。10m程奥におじいさんとおばあさんがお店を構え、何人か学生が並んでいました。「これは絶対に美味しい」と妙な確信があり、立ち寄ってみることにしました。注文票を使いながら何とか注文し、少し待つと、美味しい焼き色が付いた、ふわふわのクレープみたいな葱抓餅が出てきました。おばあさんたちが何を言っているのか分からなかったけれど、恐らく優しい表情から「熱いから気を付けてね」と言ってくれているのかなと想像し、お互いに「謝謝！」と言って別れました。片手に台湾サイズのアボカドスムージー、もう片手には出来たての葱抓餅を持ちながら黄昏時の街を歩いていると、「あー、すごく今、台湾を満喫しているなあ」と、とても満ち足りた気持ちになりました。台湾に来たら地元の方が食べるような小吃を食べたかったので、この自由時間に楽しめて大満足でした。



○11月23日（土）

台湾を訪れると、毎回必ずしているのが朝の散歩です。するとしないとでは旅行の満足度が違うので、治安の良い台湾ではできる限り歩くようにしています。ただ、いくら治安が良いとはいえ海外ですので、途中で振り返ったり、路地はなるべく通らないようにしたりするなど、油断は禁物です。昨日は疲れていたので朝はゆっくりしていましたが、「この日の朝は散歩をする！」と決めていたので、1時間くらいかけて歩きました。あらかじめ Google マップで近くに何があるのかをチェックしておき、この日は台南公園を中心に回ってみることにしました。ホテルを出ると想像以上に空気は冷たく、けれど澄んでいる

とは言い難い、台湾独特の空気がそこにはありました。少し歩くと、微かに線香の匂いが混じってきました。どこかに御廟があるのだなと思いながら歩いていくと、朱色の立派な門が現れました。Google マップによると「八協境市仔頭福隆宮」という御廟のようです。門をくぐると、すでに常香炉には太い長尺の線香があげられていました。いつも台湾で感心するのは、早朝にも関わらず、必ず管理者らしき方がいらっしゃることです。旅の安全を願って、清々しい気持ちで御廟を後にしました。

台南公園は、この御廟の目と鼻の先で、池がある広い公園でした。南国らしいヤシの木の道を通り過ぎると、巨大な菩提樹の枝が天高く伸びていました。後で調べてみたら、この菩提樹は「樹齢 110 年以上、台湾国内で最大かつ最古」（自由時報より）とのことです。柔らかな朝日を受けて佇む姿は、どこか神々しさを覚えるほどでした。6 時を過ぎたばかりにもかかわらず、公園にはたくさん的人が太極拳をしたり、ウォーキングをしたり、思い思いの過ごし方で朝の時間を楽しんでいます。台湾は台北しか訪れたことはありませんが、人々が早朝から活動的なのは台南も変わらないようです。公園の中をぐるりと回り、高橋市長のご当地ランニングブログに載っていた場所を見つけて、ちょっと感動したり、木の上から聞こえてくる形容しがたい鳴き声の主を、地元のおじさんと探してみたり（リスでした）、普段とは違う朝の時間はとてもエキサイティングで、たっぷり心の栄養が摂れました。

この日は夜までスケジュールがびっしり詰まっているとのことで、まずは台湾の教科書に載るほど有名な日本人、八田與一が建てた烏山頭ダムへ出発です。最初に、八田與一記念公園の広大な敷地の中に復元された、当時の住まいを見学しました。「偉大な功績を残した輝かしい人」というイメージしかなかったので、最後は戦争で亡くなり、八田夫人もダムに身を投げたという話は、非常にショッキングでした。一緒に見学していた方の中には、「夫人は自分勝手。残された子供たちがあまりにも不憫」と憤っていた方もおり、私も一人の母親として色々考えさせられました。

再びバスに乗り、小高い山の上に来ると、遠くに豊富な水量をたたえたダムが見えました。木々に囲まれた丘の上に八田與一の銅像があり、眼下に広がるダムを静かに見守っているようでした。銅像の前にはいくつもの花束が供えてあり、時を経ても八田氏が台湾の方に敬われている様子が分かって、同じ日本人として嬉しく思いました。あっという間に昼食の時間になり、ダムの敷地内にあるレストラン会場へ。今日は夕食後に夜市にも行くスケジュールのため、昼食は食べる量を考えながら済ませました。

次は国立台湾歴史博物館を訪れました。台湾が、日本や中国の干渉から自由を確立するまでの流れや、台湾に与えた影響をジオラマなどを交えながら分かりやすく展示してあり、日本人なら必ず訪れるべき施設だと思います。ありがたいことに親日家が多い台湾ですが、今もなお「台湾人」としてのアイデンティティを確立しようとしている彼らの中に

は、複雑な要素を多く秘めているのだと再認識しました。

博物館帰りのバスは夕方という時間帯のせいもあってか、今まで旅行の疲れがどっと出てきて、大半の時間を眠って移動しました。

南紡ショッピングモールに到着すると、一目散に地下へ行き、手頃なお土産や現地の美味しそうなお菓子を購入しました。別の階ではクリスマスマーケットが開かれており、作り手の方から直接、自分好みの美味しそうなヌガーを購入することができて大変よかったです。そのほか、クラフトビールのお店「金色三麥」のハニービールを目当てに5階まで上り、お目当てのビールも無事手に入れられました。

3日目の夕食は、その後すぐに夜市が控えていたため、食事をセーブしている方もいたと思われ、食べ残しの量が多くてお店の方に申し訳なく感じました。中華圏では料理を少し残すのが礼儀とありますが、残している量がとても多かったので、この日の夕食はあらかじめ量を減らした注文でもよかったです。ただ、結局のところ、その後の夜市は人でごった返しており、とてもその中で食べられるような雰囲気ではありませんでした。一通り会場内を回って、雰囲気を楽しむ程度で考えればよかったです。それが分かっていれば、昼食や夕食をもっと食べたのになあと、少々残念でした。

台南の夜市は、道路沿いではなく広場に開かれており、数百はあろうかという店舗が旗を掲げている様子は壮観でした。Oさんとはぐれないよう、人混みをかき分けながら、ぐるぐると夜市を回ります。どれを買おうか、迷いに迷って、Oさんは念願の焼き小籠包とタピオカミルクティーを購入しました。その際、Oさんは初台湾にも関わらず、お店の方や現地の女子高生らと積極的にコミュニケーションを取って購入し、その姿が素晴らしかったです。たとえ言葉が通じなくても、臆せず話そうとする姿勢はとても大事なんだなと感じました。海外旅行において「コミュニケーション能力が高い」というのは、決して言語が話せるということだけでなく、こういうことなのだと実感した出来事でした。

ホテルに戻り、夜市で唯一買った黒糖タピオカミルクティーを窓辺で飲みながら、明日の夜はもうここにはいないのだと、少ししんみりした気持ちに。パッキングを済ませて、台南最後の夜を過ごしました。

○11月24日（日）

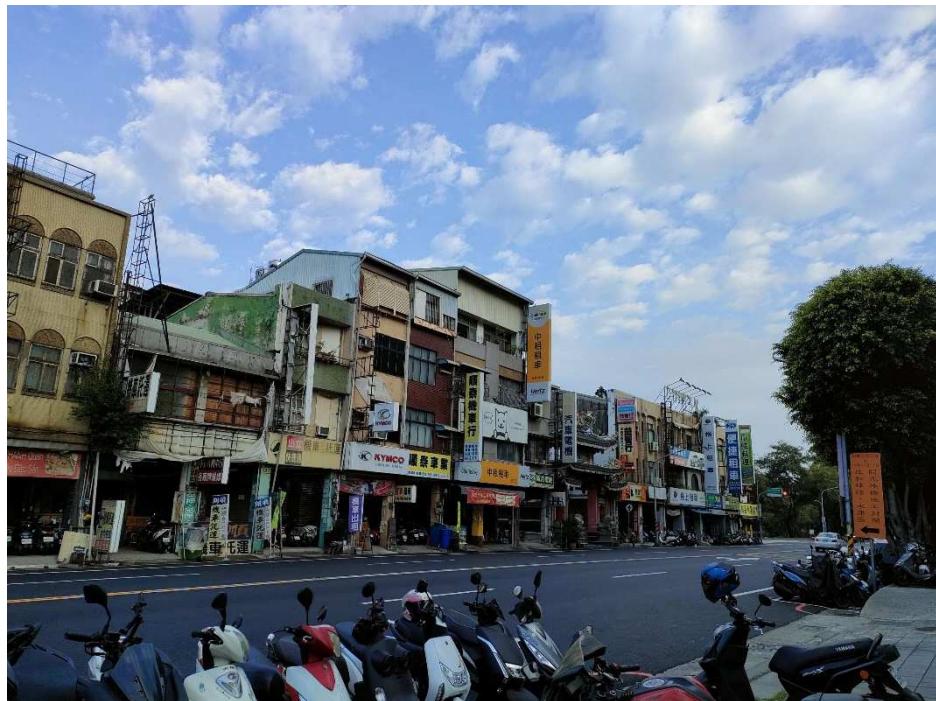
最終日も天気に恵まれ、この日も朝の散歩を堪能しました。昨日と同じ台南公園方面を歩き、同じ御廟にお参りし、通り過ぎる風景を目に焼き付けるようにして、ホテルへ戻りました。

この日は帰国するだけでしたが、高雄空港が思いのほか楽しめてよかったです。帰りの飛行機は行きと同じ航空会社でしたが、なんと客席にモニターが付いていない！みんなで「帰りの飛行機ではあの映画を見ようかしら」とか「○○の曲を聞こうかな」とか話して

いたのに、客席に座った時の「あれ？」という空気は、今思い出しても笑ってしまします。まだ緊張感が漂っていた行きの飛行機と違い、帰りは団の雰囲気がとても良くなっていたので、たとえモニターがなくても、打ち解けた雰囲気の中で各々が自然と会話をしだし、私も近くの席の方とお話しをしていたら、あっという間に成田に着いてしまいました。帰りのバスも順調で、予定の20:30ぴったりに市役所に到着したのはお見事でした。

出発当日も、一人で団体旅行に参加するのが初めてだった私は不安でいっぱいでしたが、周りの皆さんもとても優しい方ばかりだったので、リラックスして過ごすことができました。特に、最初のバスで隣同士になったOさんとはご縁があり、その後もずっと一緒に楽しい台南旅行を満喫できたことを、心より感謝しております。

近畿日本ツーリストのスタッフの方も、細やかな配慮とお心遣い、誠にありがとうございました。大変お世話になりました。



台南市友好交流都市締結使節団に参加して

小原 久子

水戸市は台南市と今回友好交流都市の締結をするとの事で参加させていただきました。前日迄の雨が上がり、水戸市役所を 71 名の団員がバス 2 台にて予定通り出発し成田空港へ。台湾高雄国際空港にて入境手続きを済ませ、夕食は台南市内で円卓での中華料理をいただき、団員全員が元気でホテルに着きました。台湾の気候は年中夏だそうです。台南市は歴史のある建造物やお寺などの史跡が多く残り、「台湾の京都」とも呼ばれているそうです。

友好交流都市締結調印式に臨んで

台南市庁舎のイベントホールに案内されて、そこには団員の座席が用意してあり、テーブルの上には「水戸市 小原久子」の名札があり、テレビ画面には台南市の映像が流れている中、台南黄市長がお見えになり、団員一人ひとりと名刺交換や挨拶を交わしました。高橋市長は歴史、給食、経済等について台南市との交流について述べられ、黄市長からは「今年台南 400 と銘打って台南市に貿易拠点となる城が造られてから 400 年の節目であり、文化、歴史、スポーツ、農産物による交流を進めて行きたい」と歓迎して頂きました。その後友好交流都市締結調印は高橋市長と黄市長が肃々と行い、水戸市と台南市の調印書を交わし、黄市長よりサプライズで安南区の道路を「水戸街」と命名したことを発表されました。（この時、驚きとともに歓声や拍手を皆さんで送りました）



飛虎將軍廟の参拝にて

水戸市出身の旧日本軍パイロット杉浦茂峰兵曹長が祀られている台湾風の煌びやかな廟に入ると大理石の柱には飛虎將軍の大義が讚えられています。毎日朝晩 7 本の煙草を献上、お経机の両側には日台両国の国旗が立ててあり、廟は両国の文化交流にも貢献していると考えさせられました。朝は日本国歌「君が代」を夕方は「海行かば」が祝詞奏上されています。今日は特別に「ふるさと」の曲が加わり私も齊唱して廟に合唱参拝しました。

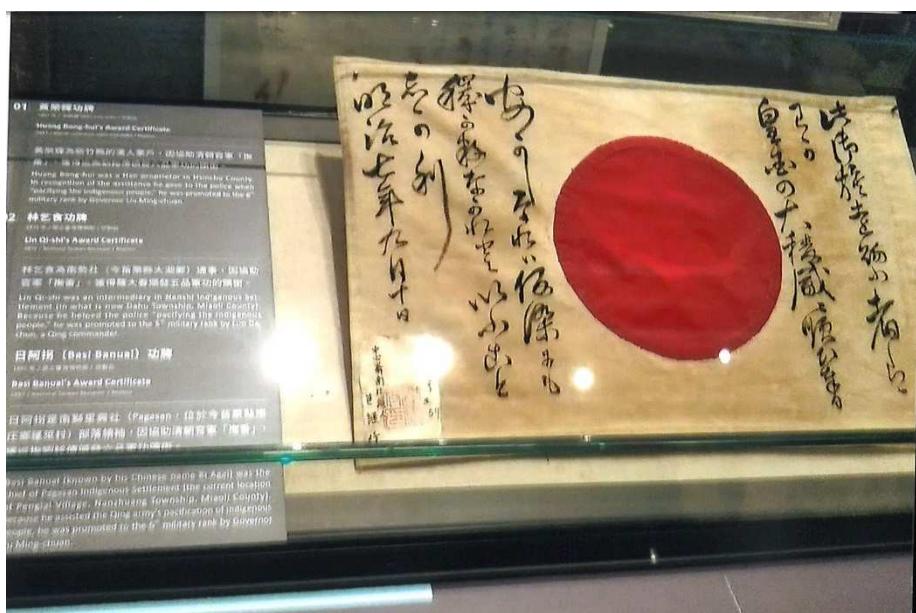
烏山頭水庫にて

烏山頭ダムは、水利技術者である八田與一氏が計画し、完成させたと聞きました。台湾の水利建設に人生を捧げた偉大な銅像は、地面に座り片手で頭を支える姿で物思いに耽る姿に、千里はるばる水路を拓く様子が目に浮かびました。

国立台湾歴史博物館では、古来の伝統文化や歴史などを観覧しました。林百貨店では、日本統治時代の建造物を見て、今も保存されている歴史的建造物から日本人と台湾人との様々な様子を知ることが出来、屋上は市内一望できる場所に侵入する敵機への対空射撃用に重機関銃が設置されていました。私は大空に両手を挙げ安心して暮らせる世の中になってほしいと願いました。



最後に、台南市友好交流都市締結調印式に立ち会うことが出来たことを、この上なく嬉しく思います。基盤が出来たので、これから 10 年 50 年永遠に交流が続くことを願っています。高橋市長はじめ、台南市友好交流都市締結調印に携わられた方々や団員さんに深く感謝し、また貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。



台南市友好交流都市使節団報告

川上 政之

台南市友好交流都市使節団団員として同行し、人生八十年にして偉大なる感動と感激を得る事が出来ました。

水戸市出身の旧海軍兵曹長・杉浦茂峰氏が台南虎将軍に祀られており、水戸市は台南市の友好交流都市です。杉浦氏は若干二十歳という若さで神様に祀られる事になりました。

台南市とはぜひ今後とも尚一層友好都市として交流していきたいです。

(令和六年十二月吉日)



水戸市・台南市友好交流都市締結使節団に参加して

川上 美智子

水戸市の台湾・台南市友好交流都市締結の使節団に応募し、71名の使節団の一人として参加した。3泊4日の台南市への旅は、終戦直後に生まれ、大戦の経験がない世代にとり、日本の植民地時代の歴史を学ぶ貴重な機会となった。

台湾は、我が家の子どもたちが小中校生の頃に家族旅行し、台北、台中を中心に観光地を巡った。2回目は5年前、ロータリーのインタークトクラブの高校生たちと台北のロータリークラブや学校等を訪問し交流した。今回の参加にあたり、少し台湾のことを調べてみた。

フィリピン海プレートにユーラシアプレートが潜り込み形成された台湾島は、東側に衝突で形成された山脈が南北に続き、西側の平地にいくつかの都市が作られている。17世紀にはオランダの統治下に、更に1683～1887年は大陸の清朝の統治下に入り、その後の50年間（1895～1945年）が日本の統治という被侵略の歴史をもっている。

訪問した台南市は、オランダ時代のレンガ造りの建造物や清朝時代に首都として栄えた名残が各所に残され、台北とは趣を異にしていた。楽しみにしていた食事や料理も、南アジアの影響か、サトウキビ生産地であるためか、とにかく我々には甘味が強過ぎた。

視察では、統治下で活躍した若い日本人の足跡を辿った。一人は今回の締結のきっかけとなった水戸市出身の飛虎將軍こと杉浦茂峰少尉である。彼は米軍との交戦で戦闘機が被弾し、台南市の集落への墜落を避けて離れた畠まで飛ばし、21歳で命を落とした。地域の人々は多数の台湾人の命を救った恩人・神として、今では街中である墜落地に廟を建てた。訪問団は、廟内で戦前の真直ぐな若者的心に涙し、「ふるさと」を歌った。

もう一人は、烏山頭ダムや嘉南大圳の水利施設を造った八田與一である。この水路の完成で、この地域は豊かな農業地帯になったと言う。石川県出身の彼は、東京帝大土木工学科を卒業後、乗船した船が米軍攻撃で沈没し亡くなる56歳まで、30年間を台湾のダム造営、下水道建設、港建設など重要な土木事業に技術者として貢献した。日本の技術を台湾に伝え実践した彼の偉業は、台湾の馬英九総統により八田與一記念公園として残されており、烏山頭ダムが見渡せる一角に夫妻の墓と銅像が建てられている。遠く離れた地で志をもって厳しい仕事に捧げた八田技師の生涯には胸打たれた。

戦前の国粹一筋の日本の教育にはよい印象をもっていなかったが、志高く道徳観や倫理観のある人材育成には強く寄与したのであろう。台湾は親日家が多いと言われる所以は、今、幼児教育等で求められている忍耐力、自制心、協調性、意欲など非認知能力の高い青年たちの活躍があったからだと理解した。

国立台湾歴史博物館も日本人には必見の場である。原住民¹と外から台湾に渡ってきた人々や支配国との闘いあいや共生の歴史が展示されている。強要されたであろう日本の統治下での教育勅語や修身等の教科書のほか、当時の日本の生活文化等が展示されている。台湾には日本から 20 万人を超える官僚や民間人が移住し、日本化が進められたと聞く。展示された当時の品々が我々に訴えるものは大きい。台湾の小学生の団体が見学に訪れていたが、侵略された自国の歴史をどのように感じるのだろうか。博物館は、「お互いの声で未来のメロディーを奏でよう」と結んでいる。日本の戦争を知らない世代にも、広島や長崎だけでなく、この負の歴史をぜひ見てもらいたいと思った。

8月 22 日に団員同席の下、両市の友好交流都市締結が無事結ばれた。そのおもてなしにも感動し、多くの市民が当地を訪れ友好を深めてほしいと願った。終わりに、この度貴重な体験をさせて下さった水戸市、及びたくさんのご縁を頂いた使節団の皆様に感謝する。

追記：視察から帰った後、妹の夫の父親（後宮虎郎 元韓国大使）の伯父、後宮信太郎（明治 6 年～昭和 35 年）の存在を知った。明治 28 年に台湾に渡り、4 年後には台湾レンガ株式会社社長として台湾最大のレンガ事業を展開し、総督府等の建物の赤レンガに使われた。他にも高砂酒造株式会社、金爪石鉱山株式会社など台湾で多数の会社を設立し、後に金山王として名を馳せた。台湾商工会議所会頭、台北商工会議所会頭を務め、日本に戻り台湾協会会长を務めた人物だったということで、今回の視察も何かのご縁のように感じている。



¹ 台湾では「先住民=すでに滅んでしまった民族」というニュアンスで使われるため、ここでは敢えて「原住民」と表記しています。（事務局追記）

F 氏が繋いだ台南三度目の訪問

川又 哲男

私の今回の訪台は4度目で、台南訪問・飛虎將軍廟への参拝は3度目となる。最初に訪れた時は、2016年6月で台湾は総統選直後、初の女性総統蔡英文誕生に沸いていた。訪台の主目的は飛虎將軍廟への参拝で、家内と家の友人2名での3泊4日の台南への旅であった。

そもそも、私が飛虎將軍を知るきっかけは、以前私が指導者をしていた少年野球繋がりで、当時少年野球茨城最強チームの総監督であったF氏からの情報であった。F氏とは氏が国会議員の秘書をしていた時の奇縁繋がりもあり、野球以外の場面でも親しくさせていただいていた。ある時「台湾で神様になったゼロ戦パイロットがいるんだよ。」とのお話を聞き、しかもその神様は水戸出身で、私の娘や妹もお世話になった五軒小学校の卒業生という実に興味深いお話であった。因みに氏も五軒小の卒業生である。

ネットやSNS等で調べていくうちに、太平洋戦争末期の台南沖航空戦で散花された杉浦茂峰飛曹長がその人であり、台南の方々が地元を救い、その後の繁栄をもたらした恩人であるとして、非常に手厚く神様として祀って頂いている実態が分かってきた。

一方、F氏はある時期にはほぼ月一ペースで台南を訪れ、祀っている飛虎將軍廟の保全・管理・運営を行っている管理委員会の方達との関係をより深く繋いでいかれた。氏と会う機会があれば、その都度多くの飛虎將軍にまつわる最新の情報の提供をいただく事が出来た。そして、管理委員会の方々は、飛虎將軍廟の参拝に多くの日本人が訪れる事が神様の何よりの供養になるとの事で、とても嬉しいのだと常々おしゃっていた。

そこで、私より遙かに多くの海外旅行経験のある家内をおだて上げ、茨城空港から台湾へと出発した次第である。事前に廟を訪れる日程をF氏より管理委員会に伝えていただき、役員の方々（実はこの後、ずっとお世話になる郭さんとの最初の出会いであった）が、お迎えしてくれる格段の配慮をして下さった。気温30°を超える暑さの中、廟にたどり着くと何と管理委員会の方々と一緒にF氏が待ち構えているではないか。その時の参拝時の心が震える感動は、「君が代」、「海行かば」の斉唱と共に、一度訪れた方には今更述べる必要もないと思う。



その年の9月には、神様のお里帰りとしてご神体（分祀）が訪日、水戸にて感動的なセレモニーが展開された事はご存じの方も多いと思う。このお里帰りは、F氏の多大な尽力なくしては実現しえなかつたと断言できる。氏は祀って下さっている台南の方々に少しでもお礼が出来ればとの、ただその一心で奮闘されていた。管理委員会の方々も氏には全幅の信頼を寄せ、当時の台南市長で現台湾総統の賴清徳氏と氏との面会もアレンジしている。

今回の飛虎將軍に起因する水戸と台南との友好都市締結は、F氏の思いを知るものとして非常に感慨深い。それは当初から氏から聞かされていた、管理委員会の方々の希望は、飛虎將軍廟学区の小学校と、神様の出身校である五軒小学校との子供たちの継続的な交流と、五軒地区に神様を祀る（分祀する）お宮の建立の2つであるとの事であった。氏は何かこの願いも実現をさせたいと活動を模索していたが、突然の病により2021年に帰らぬ人となってしまったのである。

しかし、既に来年度には、廟の地元安南区安慶国民小学校と五軒小学校との交流が計画されているらしい。将来的に子供たちの交流が継続的に展開していく事が期待できる。

残るは市内の相応しい場所に、飛虎將軍の分祀を奉納するお宮の建立という事になる。氏は生前、杉浦氏の生家があった五軒町の旧茨城県信用組合農林部事務所地内や、かつて五軒小があった水戸芸術館近辺での建立可能性やCF（クラウドファンディング）等での資金集め等を模索していたようだった。今回の友好都市締結で台南市は飛虎將軍廟にも近い街路を「水戸街」と命名するサプライズを用意なさつて下さった。友好の証を形のあるもので表してくださった分けであり、水戸市としても同様な形のあるもの、つまり飛虎將軍宮で返答するのも一つの有力な案として更なる交流の深化に繋がっていくのではないかと思う。政教分離の原則から、公設は無理であろうかと思うが、まずは多くの水戸市民が廟を訪れる事により、水戸飛虎將軍宮の建立の機運が高まり、そして建立実現の動きへと進む事が一番の近道であると思うのだが。

最後に、杉浦飛曹長ばかりでなく八田與一技師、森川清治郎巡査など、台湾には同じように守られ祀られている日本人がいる。このような事が台湾の人々には当たり前の感謝の証なのである。これらへの訪問・参拝は、かつて多くの日本人が普通に有していた万物・森羅万象への畏敬、感謝の念が、日本人としてのアイデンティティで有る事を思い起こさせてくれるのである。



台南市訪問を通じて考えたこと

倉澤 正樹

私が国際交流で大切だと思うことは、互いの長所を認め、学び合うことである。その延長上に、自分の属する共同体の在り方が問われ、在るべき未来の構想が湧いてくる。国際交流の価値は、未来を構想する資源を得ることである。

今回の台南市訪問で、懐かしく思い出される風景は、台南駅を中心とする街並みである。住・職・学・遊の諸機能が凝集し、ウォーカブルで魅力溢れる都市空間となっている。駅近くの成功大学には、ガジュマルの大木が茂る広いキャンパスがあり、鳥のさえずりと緑を求め、近隣住民が散歩に来る。その近くに台南公園があり、湖畔に中国宮殿風の涼亭が配され、優美な景観を呈している。公園には健康遊具がふんだんに設置され、朝から多くの高齢者が集まる。クラブのような活動も、其処此処で見られる。

ふと、自分自身の老後を想像した。地縁が無く、身近に家族がいない状況で、独居生活が長く続ければ、孤独感がじわりと募るだろう。もし、毎日自然と足が向かうような公園が街の中心にあり、そこへ行くと顔見知りのメンバーに出会える。そんな空間があれば、どれだけ救いになるだろうか。台南公園は、高齢者にとって住み良い街の在り方を示してくれた。

台南駅から徒歩圏内に、1665年に建てられた孔子廟がある。毎年、孔子の誕生日とされる9月28日に、孔子を祭る礼・樂の祭典が催される。市民向けに、伝統的な雅樂の学習教室も催している。孔子廟は水戸市の弘道館内にもある。孔子廟・鹿島神社での祭りの再興や、藩校での学習体験教室の開催等を通じて、活きた学問の聖地としての輝きを取り戻せないか。これは、私の夢である。

さて、孔子廟の傍には、1932年に山口県出身の林方一が開いた「林百貨店」がある。屋上には神社を、店内には当時のエレベーターを残している。1930年代の台湾の地図をはじめ、「老台湾」を想い起させるグッズのコーナーが設けられている。売り場では当時の台湾を代表する作曲家、鄧雨賢のゆったりとした音楽が流れている。台南市の歴史遺産でありつつ、戦前日本の銀座にあったであろう百貨店の雰囲気も感じられるような、日本の人々にとっても「懐かしさ」が込み上げてくるスポットである。林百貨店は、単にモノを



売る場所ではなく、センスの高い生活文化を体現し、提案する場となっている。この感覚は、東京神保町の書店に似ている。神保町の書店は、書の選定・配列が店主のセンスを体現し、独特の知的空間を醸し出している。「センスある空間を如何に体現するか？」これこそ、実店舗が、ネット通販と差別化し、時代を超えて追求し続けるべき価値である。林百貨店の建物は戦後長らく軍などの倉庫として使用されてきたが、台南市政府が「市定古跡」として価値を見出し、創業当時の姿に再現修復し、公募によって選ばれた事業者が2013年に百貨店としてリバイバル・オープンしたものである。滋賀県長浜市の「黒壁スクエア」の再生物語と似ている。林百貨店を歩き回りながら、水戸駅周辺の商店が林百貨店のように魅力溢れる空間となったら楽しい、と想像した。

台南の街並みには、ゴミステーションがない。決められた時刻に街を回るゴミ収集車の中に、住民がゴミ袋を投げ入れる仕組みとなっている。また、商店街の歩道は、店ごとに高さが異なるため、歩行者が転んでしまうような段差が多くある（意識の高い店は、段差をスロープにしてある）。総じて台湾は、日本に比べて個人主義的であり、ムラ社会的抑止力が働く社会だと感じる。一方で、水戸市の現在の自治会加入率は、50%程度である。公園・ゴミ収集・商店街の在り方等、今後の時代の推移を考える際に、住民が個人単位で行動することを前提とした台南市の行政サービスのスタンスは、参考になるかも知れない。

国立台湾歴史博物館では、台湾の人向けのメッセージと、外国人向けのメッセージを感じた。

台湾の人向けのメッセージは、「誰のものでもない島、台湾。過去の台湾の歴史を如何に解釈し、未来の歴史を創るか。それはあなた次第だ」というメッセージである。外省人も内省人もなく、漢人も客家人も原住民もなく、ノーサイドで一丸となって、「台湾」という共同体をより良くするために、共存してやっていこう。展示の背景に、そんな未来志向の哲学が透けて見えた。これは、セトラー・コロニアリズム（‘先住者’としての先住民の土地に‘入植者’が建国する‘入植植民地主義’）という思想潮流を反映していると思う。セトラー・コロニアリズムは、異なる文化的背景を持つ者が共存し、共同体を形成する上で、鍵となる概念である。国立台湾歴史博物館のメッセージは、民族ナショナリズムを主張した、「台湾の人の、台湾の人による、台湾の人のための政府」を支持するものと言えよう。国立台湾歴史博物館の日本語版ホームページの「発展ビジョン」には、「多様な対話の場として、台湾文化の主体性、公民社会と文化の多様性を形成します」とある。

国立台湾歴史博物館の外国人向けのメッセージは、「台湾は、中国大陸とは異なる独自の歴史的形成過程を有し、台湾の人によって意思決定されるべき独立共同体」である。国立台湾歴史博物館の日本語版ホームページの「発展目標」に「世界中に台湾を認識させ、

台湾が自身を再認識するための窓口になること」とある。

日本の歴史博物館は、概して「歴史は歴史として、現代の政治・社会と距離を置いてこそ、客観的学術研究の拠り所となり、偏りの無い公共的知識を提供する場となり得る」という価値観が強い。台湾の歴史博物館は、台湾の社会文化の多様性、地方ごとの歴史文化の多様性に焦点を当てつつ、互いの対話を促すことで、多角的な展示となり得ている。歴史博物館が、学術研究の水準を保ちつつ、対話的・未来志向的で、シティズンシップ教育・社会運動と対話の役割を担うことが可能であることを示してくれている。

台南市政府を訪れて、台南市が世界中の都市と友好交流都市協定を締結していること、2023年7月に安倍晋三写真展を開催したことを知った。台南市政府は、「台湾」の命運を背負って国際交流をしている。2021年12月の「台湾有事は日本有事であり、日米同盟の有事でもある」という発言により、安倍晋三元首相は台湾の人々に大恩人として、深く刻まれていることを実感した。日本の未来はどうあるべきか。

台湾は今後、数十年間に渡って踏ん張り、中国大陸とのパワーバランスの変化を待ち続けるだろう。平和的存続を国是とし、明確な独立も戦争も避けてきた台湾の粘り強さ、したたかさは、学ぶべきところが多い。広く、深く、複雑な根を張り、世界と水面下で繋がっておくことが、未来への道になるかも知れない。

末筆ながら、今回の訪問事業を企画し、支えてくださった皆様方に、心より御礼申し上げます。

台南市友好交流都市締結使節団について

黒木 雅宏・亜希子

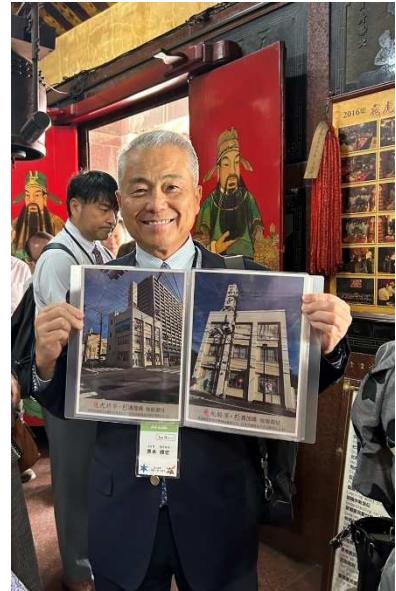
台南友好交流都市締結使節団に参加させていただき誠にありがとうございました。とても貴重な経験をさせていただきましたことに、高橋市長をはじめ水戸市や国際交流協会の皆様、またご尽力いただきました全ての皆様方に厚く御礼申し上げます。

水戸市役所にて職員の皆様にお見送りいただき、成田空港から高雄空港に到着するとかなり暑さを感じながら、少し甘めの台南料理を満喫し、歴史ある台南ホテルに宿泊しました。

2日目は水戸市五軒町出身の杉浦茂峰氏が祀られている飛虎將軍廟をお参りさせていただいた後、台南市の歴史的建造物である赤崁楼を視察し、台湾とオランダとのつながりを知ることができました。午後からは台南市役所に入り調印式となりました。台南市は世界中の国々とのつながりがあり、茨城県内においても交流都市を締結しているため積極的な活動をしているのだと感心させられました。また黄偉哲市長はとても友好的な方で、我々使節団全員に名刺をいただき、素晴らしい歓迎をうけました。調印式が始まると高橋市長と黄市長が相互に署名をして水戸市と台南市の友好交流都市締結となりました。また黄市長からは飛虎將軍廟近辺の道路を「水戸街」と命名するというサプライズも発表され、使節団一同さらに感動させられました。

3日目は八田與一氏が設計・建設工事に携わった烏山頭水庫を訪れ、午後からは国立台湾歴史博物館を視察し台湾の歴史を知ることができ、夕食後は台湾名物の夜市へいき、地元の文化を楽しむことができました。

今回の使節団におきましては、素晴らしい体験・出会い・感動をいただき誠にありがとうございました。ご尽力いただきました皆様方に改めて御礼申し上げます。来年の重慶訪問団も楽しみしております。



台南市友好交流都市締結使節団に参加して

小池 貞



昨年9月中旬、岡田広先生の来訪があり、「パスポートの有効期間は？アルゼンチン・ブエノスアイレスに行っているから大丈夫だよな」と、突然の言葉に何事かなと思いました。

岡田先生から、11月21日から3泊4日のスケジュールで、水戸市と台南市の友好都市締結式に使節団員として参加を促されました。

台湾には2度ほど訪問しましたが、台北、基隆、台東市などで台南市は初めてでした。

またとない機会にご一緒出来るならと二つ返事で参加をお願いしました。

10月末には、結団式に臨みましたが、団長に高橋市長、副団長に大津亮一議長、団員の面々には、なつかしい顔や知り合いも多く参加されていることで、楽しい旅になるものと感じました。

2日目に、水戸市出身の零戦パイロット杉浦茂峰兵曹長が祀られている飛虎將軍廟を参拝致しました。廟は瓦にしても内装にても煌びやかな立派な建て屋でした。驚いたことにこの建物や管理はこの地域の人々がボランティアで行っているとの事で感激しました。また、異国で「君が代」を歌い、「海行かば」も歌いました、団員の歌っている姿は感動と感激でした。

帰国後、岡田先生から『君と共に 空へ飛ぶ』の純愛悲恋の小説を頂き、台南市の空に散った杉浦茂峰兵曹長の思いの一遍も知ることが出来ました。

その後、水戸市・台南市友好交流都市締結調印式に同席しました。会場には団員個々の名前がありはるばる訪れた方々を、心から歓迎する雰囲気でした。さらには黄偉哲台南市長自ら団員の席を回り握手し名刺を渡されました。調印式は盛大な拍手のもと無事終了しました。

3日目には、国立台湾歴史博物館を見学。台湾の歴史、文化を保存する博物館で10数万点に及ぶ資料が収蔵されており、過去から現代までのテーマを4階まで広いスペースに展示されていました。

帰国日には、食事後にホテルの周辺を散策し、お寺さんや広い公園などに行きましたが、市中もそうですがゴミの散乱もなく、きれいな街でした。

加えて、バイクの多さには驚きました。2人乗りは当たり前、子供を抱えた3人乗り、個々の習慣なのでしょう。

この行程中、気遣いをして頂き楽しく旅が出来ましたことは、市役所職員、国際交流協会の皆様、ツーリストの皆様方に感謝申し上げます。勿論団員の皆様方にも。



水戸市・台南市友好締結訪問 報告書

小柴 庄市

11月、水戸市は台南市との友好提携を目的として使節団を募集し、私もその一員として参加する機会をいただきました。

今回の訪問は、台南市との友好交流都市協定の締結という公式な目的に加え、市民レベルでの民間交流を促進する重要な契機と位置付けられました。台南市は水戸市との縁が深く、両市が共に歴史や文化を尊重し合い、未来志向の関係を築く基盤を共有しています。

台南市と水戸市の関係を象徴するのが、水戸市出身の旧海軍兵曹長・杉浦茂峰氏の存在です。杉浦氏は第二次世界大戦中、台湾で飛行機の墜落事故により命を落としましたが、その勇敢な行動と地元住民への貢献が評価され、「飛虎將軍」として台南市の廟に祀られています。この信仰は台南市民の厚い敬意に基づいており、杉浦氏の精神は今も両市を結ぶ象徴的な存在となっています。

台南市は台湾最古の都市として、多くの歴史遺産や文化的な名所が点在しています。

台南市の路地裏を歩くと、昭和期の日本を彷彿とさせる原風景が広がります。赤レンガ造りの建物や古い木造住宅は、日本人にとって懐かしさを感じさせるものでした。

台南市は「美食の都」とも称され、多様な料理を楽しめる屋台や夜市が市民生活の一部を成しています。特に夜市では、現地の人々との交流を通じて台湾特有の温かい人柄に触れることができました。

台南市は南国特有の温暖な気候に恵まれ、治安の良さも特徴です。観光客にとって安全で快適な環境が整っており、民間交流の場として最適です。

結びに台南市との友好提携は、水戸市の国際交流の大きな一歩となりました。本訪問を通じて感じた台南市の魅力と市民の温かさは、両市の未来を明るく照らすものです。引き続き、民間交流の架け橋として活動を継続してまいります。



台南市との友好交流都市締結報告－歴史と未来をつなぐ新たな一步－

佐竹 弘之

報告書の目的

水戸市主催の友好交流都市締結使節団の一員として台南市を訪問し、友好交流都市締結調印式に参加しました。本報告では、台南市の特長や締結式の様子、水戸市との交流の可能性について述べます。



台南市の概要

台南市は台湾でも最も古い都市の一つであり、歴史的に重要な役割を果たしてきました。オランダ東インド会社の植民地時代、明朝・清朝の中華系政権時代、日本統治時代を経て、現在多くの歴史的建造物や旧跡が残されています。

一方で、台南市は半導体産業の拠点としても知られ、TSMCをはじめとする多くの企業が集積しています。その結果、台南市は台湾を代表するハイテク産業都市として発展を遂げています。人口は180万人を超え、都市計画や交通インフラが整備され、経済活動が活発な都市として発展を続けています。このように、台南市は歴史的背景と経済発展が融合した魅力的な都市といえます。

友好交流都市締結調印式の様子

調印式は台南市役所の大会議室で開催されました。台南市の黄偉哲市長は、使節団員一人ひとりに名刺を手渡し、丁寧な挨拶をされました。その姿勢から、式典が単なる形式的なイベントではなく、政治的にも重要なものであることを感じました。黄市長は国立台湾大学を卒業後、イエール大学やハーバード大学で学び、国會議員を経て2018年から台南市長を務めるなど、高い政治的手腕と存在感を備えたリーダーです。

今後の期待

水戸市の人口は27万人で、老年化傾向が続き、思うような発展が実現できていないのが現状です。今回の友好交流都市締結により、台南市の活力を取り込み、文化・産業・農業など多方面での交流を進めることで、水戸市のさらなる発展が期待されます。具体的には、台南市の成功事例を参考にしながら、地域資源の活用や新たな交流プロジェクトの展開を図ることが重要だと考えます。

初めての台南

清水 修

友人の黒羽さんから、「清水君、水戸市で台湾ツアーを募集しているから、一緒に行かない？」と連絡がありました。

黒羽さんは民間企業で中国駐在経験があり、以前から友人たちと何度も中国や台湾ツアーに行っていました。

しかし近年はコロナの影響と、さらに中国大陸は様々な社会情勢から行きにくい雰囲気があり、「台湾なら行けるね」と言っていた矢先のことでした。

いつもなら二つ返事で承諾するところですが、私は元水戸市職員でさらに水戸市国際交流協会に勤務していたこともあり、なるべく多くの一般の水戸市民の方に参加して頂いたほうが良いのではないかと思い、返事をためらっていました。

しかし、平成 28 年 9 月 22 日に台南市からの訪問団をお迎えしたことを思い出し、さらに調印式に参加できることなんて滅多にないことだと考え、応募することにしました。

黒羽さんは、私の他にも何人かの友人に声をかけ、最終的には彼と同じ会社に勤めていた坂場さんと、やはり中国駐在経験がある間部さんの 4 人で参加することになりました。

私にとって初めての訪台でしたが、街並みを見るとお店の看板がカタカナで「スシロー」とか「トヨタ」と書かれていていますし、コンビニやスーパーマーケットには日本の商品が日本のパッケージのまま売られていて、とても奇妙な感じとともにほっとする気持ちを持ちました。

また、今回訪問の目的である飛虎將軍廟や日本人技師の手による烏山頭水庫など、様々な日本にゆかりのある場所を訪れることができ感慨深いものがありました。

もちろん、植民地支配の時のものであり現地の人々にとっては良いことばかりではなかったと思いますが、今でも利活用されている施設があることは、ひとつの償いでもあるかもしれません。それにしても、戦争は始めるることは簡単ですが、終わらせることが困難であることはウクライナやガザを見ても明らかです。

杉浦茂峰さんが戦死した台湾沖航空戦は、昭和 19 年 10 月に起こりました。

その 4 か月前の 6 月のマリアナ沖海戦で日本軍は空母 3 隻、航空機 450 機と熟練搭乗員多数を失い、この結果米軍は日本周辺の制海権と制空権を確保しました。

そして、これにより米軍は日本本土を容易に攻撃することが可能になりました。

つまり、ここで負けを認めていれば沖縄戦も日本各都市の空襲も広島・長崎の原爆投下も起こらず、多くの人命が失われずに済んだと思います。

もちろん、杉浦さんも生きて水戸に帰り、幸せな人生を送ることができたのではないで

しょうか。

戦争を終わらせることが難しいなら、そもそも始めるのが肝要です。

そのためには、都市間や市民レベルでお互いに交流し、親善を深めることが最良であると再認識した旅でした。



台南市友好交流都市締結使節団に参加して

高野 賢

●感動の使節団

岡田先生からご紹介頂き、使節団に参加する事が出来ました。素晴らしい感動の使節団でした。ありがとうございました。私の人生にとって貴重な思い出となる台南でした。

●学びの友好交流都市締結調印式

生まれて初めての、友好交流都市締結調印式。黄台南市長の、一人ひとりと挨拶をされる姿から、大変な学びがありました。

●感動の飛虎將軍廟

水戸生まれの杉浦茂峰兵曹長が、飛虎將軍として祀られている廟は感動の場でした。異国 の地国で歌を歌った時は、国歌の尊い価値を心から実感いたしました。

●偉人・土木技術者八田與一氏

八田與一氏のことを、初めて詳しく学ばせていただきました。石川県の出身であり、土木エンジニアの八田氏。金沢に長らく暮らし、土木設計をしていた私にとって、八田氏の偉業に深い学びと感動を覚えました。

●日本の歴史発見・国立台湾歴史博物館

国立台湾歴史博物館では、日本が台湾を統治していた時代のあり様を改めて学ばせていただき、また新たな認識もさせていただきました。

●観光スポット・赤崁楼

赤崁楼は、1653 年に当時台湾南部を占領していたオランダ人によって建設された、台南市では観光スポットの一つ。これから、台南観光の未来を期待したいと願いました。

●最後に

思い出の台南でした。また、多くの素晴らしい方々と交友を深めることができました。今回、高橋市長、水戸市そして関係者の皆さま方に大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

今後は、私共、水戸・茨城と台湾・台南の民間経済交流に尽くして参りたいと思います。何度も台南を訪れて深い絆を創ってまいりたいと祈念いたします。ありがとうございました。



水戸市と台南市の友好交流都市締結調印式に参加して

浅川 久志・関 義則・高安 武雄
塙和 紀幸・若山 実

去る 11 月 21 日から、私たちは水戸市と台南市の友好交流都市締結調印式に参加するため、初めて台南市を訪れました。先ずは、水戸市民としてこの使節団に参加させていただき、水戸市長をはじめ市議会議員方々、そして水戸市国際交流協会の方々へ感謝申し上げます。私事ではありますが、この度の友好交流都市締結が、どの様なご縁で成されるものか事前説明まで良く知らなかつたことが正直な所です。

水戸市出身の杉浦茂峰氏(飛虎將軍)が戦時中、台南市民を守るため自らの命を懸け街中の墜落を避け戦死し、台南市民より英雄として祀られている飛虎將軍廟への参拝、そして赤崁楼や烏山頭水庫、国立台湾歴史博物館など多くの台南市にある台湾史跡建造物と文化施設、林百貨店など、台湾が日本国統治されていた頃の歴史に触れることができました。

飛虎將軍廟への参拝では日本国国歌となる「君が代」が流れ、若干 20 歳の杉浦氏を含めた多くの若者が国を想い、憂いて戦死した悲しみで自然と涙が出てしました。私達だけでなく、多くの参加者が歌いながら目頭を熱くしておりました。そして参拝として、杉浦氏の好きだったタバコで追悼をさせてもらいました。

烏山頭水庫では、八田與一技師による台南市で広大な場所へダムを造営し、台北下水道、高雄港建設など、台湾へ大きな貢献をされた日本人として居住住宅の再建整備もされており、当時の生活家屋なども見学もさせて頂きました。

そして、この使節団として最重要となる友好交流都市締結調印式では、台南市庁舎を会場として、参加者全員一人ひとりへ台南市長より対面のご挨拶として席まで来て頂き、おもてなしのお気持ちが伝わりました。前後しますが、庁舎内に現在までの友好都市との記念品経歴、資料なども展示しており、非常に重要で大切な関係と位置付けられている事も感じました。以前、台南市と那珂市との友好交流都市締結では、那珂市マスコット人形(ナカマロちゃん)を浅川氏も団員として届けに伺ったと話されていました。浅川氏は 2 度目の台南市訪問のようで、台北へは仕事で幾度となく訪問され国際交流を大切にされてい



ると話されていました。調印式では、台南市長・水戸市長が両市の友好関係を祝うスピーチを行い、今後、お互いの文化や経済的交流、共に価値観を大切にし合う関係へと感じられ、感動致しました。また、この友好交流都市締結調印式を通じて、今後多くの市民や商取引関係の交流の場が設けられ、台湾の方々と友好が広く深くなることとも感じました。

そして、街並みと住む方々を観て感じたのは、台南市や市民はとても温かく、私たちを迎えてくれ、街並みは懐かしさを感じる歴史とモダンさが融合しており、特に台南市の古いお寺を訪れることができたのは、非常に印象的でした。林百貨店では屋上に上がり、戦時中の銃弾跡や祠があり、今なお地元の方々が大切に保存して頂けている事、台南市民の温かで親切な心が伝わってきました。

今回の使節団として訪れ、3日目の最終日夜は、使節団に参加された若い方々とともに台南市民の憩いの場となる所を少しだけ体験することができました。笑・・・

今回の友好交流都市締結調印式使節団訪問を通し、水戸市と台南市の友好関係がさらに深まることを願い、異なる文化や背景を持つ人々と交流することで、自分自身の視野も広がったように感じています。そして最後に、このような機会を創って頂き、大変貴重なる経験と体験ができましたことに、参加されました方々全員へ感謝をお伝え致します。

追伸：翌日、岡田 広様より「君と共に空へ飛ぶ」の単行本を戴き、拝読することができ、戦時中の台湾、日本の状況なども想像しながら、楽しく学ぶことができました。

礼儀正しい人たち

田中 一夫

解団式も終わった 12 月 26 日に、台南訪問の記事が掲載されていると聞いた茨城新聞を買いに行くと 5 回連載でダムと林百貨店の記事でした。台湾南部は平野と水源があるものの農業は不振でした。1930 年に当時世界一のダムと灌漑設備を整備して、台湾は農業大国になりました。私たち一人ひとりにあいさつされた市長さんは農学部の出身でくだものを詳しく説明され、翌日の夕食に柑橘類を差し入れてくれました。市長の父親が医師なので公衆衛生の大学院を出て社会福祉に努められました。市役所には茨城県からの訪問者の写真（添付等）が多数展示していました。外国の政治家を詳しく知りませんが 日本と違った学ぶべき点の多い方でした。

『君と共に空へ飛ぶ』という小説で、創作部分ではありますが、主人公の飛虎將軍が蔡靜美に会うのが林百貨店で、日本橋高島屋のようなものです。エンパイアーステートビルのように戦前の建物が現在でも使用しています。歴史的建造物を保存するという観点において地球温暖化の模範的対策です。林百貨店は、大型のショッピングセンターとは客層も人数も違いますが、ゆっくり時間を楽しむには最適な場所でした。林百貨店付近をはじめ戦前からの駅周辺でも清掃が行き届いて街路が補修してあり、広くない通路をすれ違う時、通行人が相手に通りやすくなるように姿勢を変えていました。

日本、台湾やスリランカは大国に隣接した島国で戦争もありましたが 文化に恵まれました。日本とスリランカは大陸で衰えた仏教を保存して飛虎將軍廟は朝夕 2 回祝詞奏上するばかりか、故宮博物館ならば清朝の第一級の美術品を保存しています。以上のように、台湾に 4 日滞在し、日本に劣らない礼儀正しい人びとに出会うことができました。



台南市友好交流都市締結使節団に参加して

田山 忠男

台南市友好交流都市締結使節団員としての参加は、非常に貴重な経験でした。台南市の歴史や伝統に触れる機会であり、地域の魅力を直接体験できたことは大きな収穫でした。今回団員としての参加は、感動の連続でしたが、その中でも特に感銘を受けたことを、述べたいと思います。

到着二日目が、友好交流都市締結調印式の日でしたが、午後からだったので午前中に飛虎將軍（杉浦茂峰）廟を訪問しました。水戸市出身の飛虎將軍は、わずか20歳の時に台南市上空で米軍機と空中戦になり被弾し、住民の命を守るために、一心不乱に住宅街を避けて郊外で墜落したことを元水戸市長でもあり、元参議院議員であった岡田広先生が説明してくださいました。

その後飛虎將軍廟を参拝し、廟の中で、国歌「君が代」と「海行かば」、最後に「ふるさと」を団員で歌いました。今までにない感動を覚え、自然に目頭が熱くなりました。

午後は、いよいよ調印式です。黄偉哲台南市長が会場に来られ、団長である高橋靖水戸市長と副団長である大津亮一議長と、かたい握手を交わした後、なんと、70名以上いる団員全員一人ひとりと挨拶を交わしてくださいました。この光景は今までに見たことのない出来事で、黄偉哲台南市長の素晴らしいお人柄を感じました。その後、それぞれの市長がスピーチを行いましたが、高橋市長のスピーチは両国の調印式に参加した人々に感動を与えた素晴らしいものでした。私は内容はもちろんのこと、原稿を見ずに自分の言葉で話している姿を見て、市長の強い思いを感じました。黄偉哲市長も感銘を受けていたのか、スピーチ中に何度も頷いていました。この調印式を間近で見て、水戸市と台南市の関係は、今後も友好的に続していくと私は確信しました。

到着三日目は、烏山頭水庫視察や国立台湾歴史博物館視察を行いました。烏山頭水庫視察では、八田與一氏の話がありました。八田氏は東京大学卒業後すぐに台湾に渡り、烏山頭水庫ばかりでなく、高雄市や日月潭など台湾全土にわたって治水工事やダム工事を行い、素晴らしい功績を挙げられたそうです。住民から功績を称え、銅像を建てたいと懇願されても断り続けていましたが、再三の要請に断り切れず、立像ではなく地面に腰を下ろし考え込む銅像であればと、承諾したそうです。八田氏の驕らない謙虚な人柄を感じました。

その後、国立台湾歴史博物館の視察に移りました。展示物やガイドさんの判りやすい解説によって、台湾の古代から近代までの歴史を学ぶことが出来ました。

私は今回、十数年前のアナハイム使節団に続き二回目の参加でしたが、友好交流の大切

さを改めて実感し、今後もこのような機会を大切にしていきたいと考えています。



台南市友好交流都市締結使節団に参加して

田山百合子

水戸市と台南市との友好交流都市協定の調印式に、使節団員として初めて参加させていただきました。

調印式は台南市庁舎で行われ、高橋靖水戸市長の歴史や文化、経済など両市の発展に取り組んでいきたいという挨拶や、黄偉哲台南市長の文化、歴史、スポーツによる交流を進めて行きたいとの挨拶があり、厳粛な中にも和やかな雰囲気で進められました。最初こそ緊張していましたが、貴重な場にいると思うと、緊張がほぐれていき、高揚感でいっぱいになりました。

また、黄市長が団員一人ひとりにも名刺交換や挨拶をしてくださり、これにも大変驚き感激しました。

調印式に先立ち、飛虎將軍廟を参拝しました。たった半年間の滞在であった、水戸市出身の旧日本軍パイロット杉浦茂峰兵曹長がなぜ台南で神として祀られ、廟が建立されたのかを知ることができました。

「君が代」や「海行かば」、「ふるさと」の曲が流れ、団員一同で斉唱したことは忘れないでしょう。

烏山頭水庫、国立台湾歴史博物館への視察、花園夜市のにぎやかさ（屋台料理は残念ながら食べられませんでした）には驚きました。

台湾に日本統治時代があったことを少しでも知ることが出来、台南の歴史や文化に一片でも触れることができたことは、本当に貴重な体験でした。

ありがとうございました。



台南市友好交流都市締結使節団に参加して

中村 友美

台南市と水戸市の間で友好交流都市締結の調印式が行われました。

水戸市出身の杉浦茂峰兵曹長が台南市において飛虎將軍として祀られて、今回初めて参拝できました。

「君が代」「ふるさと」を皆様と合唱いたしました。目頭が熱くなり、歌の意味深さを初めて理解できたように思いました。

台南市側から飛虎將軍廟に近い道路を「水戸街」と名付けられるとの話。感銘を受けました。

台南産果物もとても美味しく、国産果物との違いに感動いたしました。
食は未来をつなげる自然からの最大の力です。
今後の様々な分野での交流が楽しみです。
このような貴重な行事にお声かけいただいたことに心から深くお礼させて頂きたい思います。



今回、高橋市長、水戸市そして関係者の皆さん方に大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

下次水戸見！

野口 貴代

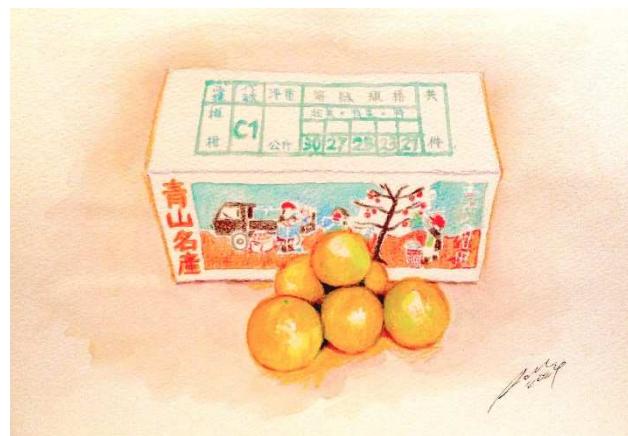
この度、水戸市と台南市の友好交流都市締結を心からお祝い申し上げます。

水戸市民を代表し、使節団団員として歴史的な調印式に関わられた事をとても嬉しく思います。

私たちは、国境を越えた大切な友情を称えることができます。この度初めて台南市を訪問し、その空気とおもてなしの精神に触れ、その事を再確認いたしました。

これから皆様が私たちの街を訪れ、水戸の風を肌で感じていただける事を楽しみしております。

黄偉哲市長をはじめ、台南市政府関係者の皆様、そして高橋靖市長をはじめ水戸市関係者の皆様のご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。



これらの絵は、野口貴代さんご自身が描かれたものです。

台南市友好交流都市締結使節団に参加して

幡谷 哲子

使節団募集の資料を頂き、どの様な縁で友好交流都市を結ぶのかと素朴な疑問を抱きました。台南市について調べてみましたところ、なんと五軒町の息子のマンションの傍が飛虎將軍（杉浦茂峰兵曹長）の生誕地である事を知らずに恥いり、そのご縁を得て友好交流の締結に至る事を知り参加を希望する事にいたしました。

朝時、雨の寒さの中、市職員の方々の見送りを受け南国への空の旅へ出発。高雄空港着、バスの車窓から高雄の街並みや、夜祭りの灯りを眺めながら約1時間半、人口180万都市夜景の台南市に到着。



翌朝、市内の飛虎將軍廟へ参拝。廟建立の歴史的背景を聞き、その事柄を受け止めた優しい国民性がこのようなかたちとして残り廟建立に至ったのではないかと感じ、台湾様式で祀られた將軍像に低頭ご冥福をお祈りいたしました。参拝式中の「海行かば」は耳に残る歌、戦争の歌そして自然に唱和できる自分に驚きました。本年は戦後80年戦いの終わりの歳に生を受け、戦の無い平和な時代を過ごせたことに感謝するばかりでした。

衿を正して台南市庁舎、台南市友好都市締結調印式会場へ。このような式の参列は初めてでしたが、厳粛な中にも親近感の湧く心遣いの溢れる締結式を見届ける機会を与えてくださいました台南市及び水戸市に深謝致しました。なかでも、グローバルな視点をお持ちの台

南市長の暖かい態度に心魅かれ、お見送りを受けながら満たされた心で市庁舎を後に致しました。

3日目、鳥山頭水頭建設の八田與一様の偉業に触れ、偉大な先人が建設の壮大な緑豊かな美しい自然ダムにしばし佇み、改めて日本人は素晴らしいと尊敬の念を抱きました。

台南市最後の夜、夜市に案内されました。過去何か国かの夜市に足を運びましたが、あれ程人があふれ物もあふれ、若人のあふれた市を見た事がありませんでした。その圧倒的な力強さに明るい未来が感じられました。



台南訪問のご縁を得て

藤本 貢大

この度、高橋靖市長を団長、大津亮一議長を副団長として令和6年度台南市友好交流都市締結使節団が組まれ、その一員として台南市へ訪問いたしました。令和7年は昭和100年であり戦後80年になりますが、町の発展・復興を願い台南や水戸を訪問された昭和天皇のご事績や水戸出身の日本人を祀った飛虎將軍廟への台南市民の思いを通じて両市の歴史の重なりを感じる旅でした。

さて、私が住職を務めます酒門町の善重寺境内の聖徳太子堂の傍らに昨年3月、昭和天皇が皇太子時代の大正12年に台湾を訪れられ植樹された寒緋桜が移植されました。これは「日台友好桜里帰り文化交流会」が仲介くださり、当寺を植樹にふさわしい場所として選定いただきました。植樹・記念碑除幕式には、駐日経済文化代表処の謝長廷代表（駐日大使に相当）をはじめ、高橋市長、岡田広前参議院議員も御臨席くださいました。その折に、高橋市長は台南市との交流の象徴として台南市に飛虎將軍廟があること、また、岡田先生は昭和天皇が戦後直ぐの歌会始で詠まれた「たのもしく 世は明けそめぬ水戸の町 打つ桜の音も 高くきこえて」というお歌が水戸城大手門傍の御製碑に刻まれていることを式典中のスピーチでそれぞれにお話しされ、昭和天皇の水戸行幸、水戸市と台南市の縁深きことに触れて参列者におっしゃってくださいました。なお、この寒緋桜は4月に水戸市にも寄贈され千波公園少年の森へ植樹されました。これらのことことが仏縁と申しますか各々に縁熟して今回、拙寺門徒の岡田先生を中心に小池貞さん、雨谷精一さん、小川和子さんと共に使節団に参加させていただきました。今回の締結式や一連の視察で深く印象に残ったことは沢山ありますが、殊に飛虎將軍廟へお参りした時のことを記しておきたいと思います。

お参りさせていただいたのは、2日目の台南市役所での友好交流都市締結調印式に臨む前、朝一番のことでありました。台湾の宗教建築は長い歴史の中で儒教・道教・仏教に影響されていて、屋根には大陸のレンガ色の瓦や大胆にデザインされたうねった2匹の龍が棟の両端に向き合って乗り、それを支える林立した柱や軒の垂木の装飾など、目の前に迫ってくるような想像した通りの立派な構えが迎えてくれました。正面には入口が3ヶ所開かれていて、中央は遠慮して左右から出入りすることが作法であると現地ガイドの方に教わりました。中に入ってみると、天井や壁も豪華で早速、中程の前卓に進み出て拝み見ますと、内陣奥の壇上に杉浦茂峰兵曹長が飛虎將軍となって木造の神像として奉安されていて、その左右にはひとまわり小さな同様の神像が2体祀られていました。これは仏教の三尊佛のように両脇に侍して中央の本尊をたすける形式にあやかったものであることが直ぐ

にわかりました。この廟を長年管理されている台南市海尾朝皇宮管理委員会の方々が温かく出迎えてくださり、廟の案内役の郭秋燕さんが廟の由緒などを流暢な日本語で説明してくださいました。その中で、杉浦兵曹長が生前に愛煙家であったことから毎日、煙草 7 本に火をつけて飛虎將軍の神像にお供えしていることを伺い、この 7 という数字は古代インドの満数であり、お釈迦様が生まれてすぐに 7 歩歩き両手でそれぞれ天と地を指さして、天上天下唯我独尊と言ったという「七歩の宣言」をはじめ、7 は仏教經典にも頻出しており、その影響は日本でも七福神や七草粥などの文化や信仰に見られますが、台湾でもこの数字を大切にする仏教由来の風儀の共通性を感じました。そして、この廟内の天井や壁が、実は香の煙で薰染により燻されているのではなく、この煙草の煙の脂で薄く全体に褐色がかっているのだということもわかりました。地域社会や日常生活と密着した信仰の力が心に響いたことでした。

飛虎將軍への信仰の熱は、航空戦で被弾し「集落に墜落させてはなるまい」と、自らを犠牲に機体を郊外まで操縦して最期を遂げた杉浦兵曹長の軍人としての生き様が終戦直後の台南市に広まり、村に被害が及ばないよう守ってくれた大恩人として、地元の人々の間で語り継がれてきたという長い年月が土台となっていることを廟内の空気から感得するものでした。純粋に心を打たれた私は、これまで飛虎將軍廟を支えてこられた台南市の先達の信仰の営みに敬服いたしました。続いて、展示物の芳名帳や写真を観ていますと、この廟の前身は 71 年に建てられた祠であり、現在の廟は 93 年に落慶されたことを知ることができました。郭さんはいつも日本人が訪問することを知ると駆け付けて、ボランティアで解説をされているそうで、参拝の終盤に私のところへ来られ「飛虎將軍に日本人のお坊さんのお経をあげてください」と頼まれましたので、嘆仏偈をお勧めいたしました。参拝中、郭さんは廟内では毎朝「君が代」を、午後には「海行かば」を流していますとお話しされていて「今日の参拝の皆様もお願いします」と促され、使節団全員での国歌斎唱をし、引き続き「海行かば」の音源が流れ、歌える団員は一緒に歌っておられました。この時に私は、今の日本のほとんどの若者が、かつて台湾が 50 年間日本の統治下であったことを知らないんだなあ、とそのようなこと言っている我々も「海行かば」のメロディーを知らなかったことに気付かされました。「海行かば」は軍歌なのですが、勇ましく戦ってこいという歌ではなく、戦地で戦い敗れた兵士への鎮魂歌であります。『万葉集』からの引用で大伴家持の長歌を原作として NHK が昭和 12 年に作曲をして成立したもので、決して酒宴の席などで歌うことのできないものであります。

4日間の宿は、台南駅前にある台南大飯店でありました。駅前広場には、400年前に台湾を占拠していたオランダ軍を退けた鄭成功（1624～1662）の銅像が、広場から延びる成功通りを向いてそびえていました。鄭成功を台湾の英雄と呼び、今の台南市民は自分たちのことを日本の都人と同じ意味で「城府人」と呼び、誇りをもっているのだと台南出身の友人から聞いていたことを思い出したりもしました。飛虎將軍廟参拝のその日の夕方は自由時間があり、駅の反対側にある台湾の名門、成功大学に足を運びました。キャンパス内には昭和天皇が植樹されたガジュマルがあります。このガジュマルは、台南市役所から宿へのバスの中で高橋市長が「調印式の時に、黄偉哲市長が市内に昭和天皇お手植えのガジュマルがあるとおっしゃっていた」と私に教えてくださるほどの樹であり、是非にと楽しみにしておりましたが、100年もの間、台南市民に愛されて育ったこの樹は、逞しく根を張り素晴らしい大木になっているのを目の当たりにして、そこに同行した団員たち皆が感極まりました。



愛され育ったこの樹は、逞しく根を張り素晴らしい大木になっているのを目の当たりにして、そこに同様の感動を感じました。ガジュマルには「樹王」の異名がありますが、その由来となった威厳のある枝振りのように台南の町が発展する願いが込められていたのでしょうか。これは先程触れました、水戸の戦後復興を願って昭和天皇が詠まれたお歌と通じるところがあるように私には感じられました。もしかすると、昭和天皇は、町の建設が進む台南でも「打つ槍の音」を聞かれていたかもしれません。二つの町の発展の歩みが私の中で重なりました。今回は台北市の寒緋桜を拝むことは叶いませんでしたが、訪れたことが報われたように思います。

今後また私が台南に訪れる時には、本多文雄（1872～1956）という知られざる偉人の足跡を訪ねてみたいと思います。彼は浅草生まれの浄土真宗の僧侶であり、明治31年に日本語教育を目的として台南の大谷学校の校長として赴任しました。その後、日露戦争で従軍布教師として出征し、帰国後は明治42年に茨城新聞社（当時、『日刊いばらき』）の主筆に招かれのちに第3代社長に就任すると、最後は台南での経験を活かして茨城中学校（現茨城高等学校・中学校）の校長を昭和6年から昭和21年まで勤められた経歴を持ちます。おそらく台南にゆかりがあり、しかも水戸で活躍された最初の人物でしょうから顕彰されるべきと考えております。

今回、水戸市五軒町の出身である飛虎將軍を崇敬する民間信仰がご縁となり、友好交流都市締結という行政間の交流にまで昇華したのですから、これからいよいよ観光・経済・

教育などで両市民の発展的な活動を通じて相互の人間力を高められることが期待されます。それと同時に恒久的な国際平和の樹立を、両市の未来を託す子どもたちに残していくかなければならないと強く思います。

最後に、高橋靖団長の隅々にまで行き届いたご配慮とリーダーシップを賜り、豊かな知見が積まれましたこと、そして全員が無事帰国できましたことを御礼申し上げますとともに、水戸市役所の皆様と国際交流協会の皆様、両市の友好交流都市締結に携わられたすべての皆様に感謝申し上げます。



台南市を訪れて

松本 圭子

今回、水戸市と台湾の台南市との友好交流都市の協定締結のため、使節団の一員として参加させていただきました。と言うのも、私の経営する学童保育の生徒の中に、お母様が台南出身の方がいて、是非とも台南市を訪れてほしいと。そんな偶然の繋がりもあり、参加した次第です。

今回の友好交流都市協定締結の背景に、本市出身の旧海軍兵曹長の杉浦茂峰氏の話があることは、知らずにいました。台南市では「飛虎將軍」として、鎮安堂に祀られており、訪れた時も、「君が代」や「ふるさと」など斉唱、そして杉浦茂峰の歴史、飛虎將軍について沢山の紹介、水戸市との交流の写真など、水戸市と台南市との繋がりを見ることが出来ました。私の生まれる前の事です。こうして台南の方々が崇拝し、感謝して語り繋げてくれている事に感謝の気持ちと、私達も同じ水戸市民として語り繋げて行かないといけないのではないかと思いました。他にも、林百貨店、桃山レストラン（前述の学童のご両親が結婚式を挙げた場所）などを訪れました。烏山頭ダムでは、造営した八田與一像の前には沢山の花が捧げられており、訪れる観光バスも沢山。台湾の水利建設に力を捧げ、貢献した人生を歩んだ功績をみることが出来ました。

公式行事の調印式では台南市長が一人ひとりと挨拶を交わしてくださいり、私も学童に台南出身の親がいる事をお伝えさせて頂きました。

今回の台南市の使節団では、台南市との繋がりを学べたこと、学童の生徒の故郷を見られたこと、無事に調印式ができたこと、その瞬間に立ち会えた事など、私にとって、沢山の学びとなりました。それ以上に、前回のアナハイム親善メンバーとの再会、そして今回一緒に参加した皆さんとの出会いは、さらなる大きな収穫となりました。水戸市長をはじめ、岡田広様、国際交流協会の方々、水戸市役所の方々、参加した使節団の皆様、大変お世話になりました。今回の皆様との出会いを大切に、このご縁をこれからも繋げて皆様と微力ながら水戸市の為になにか出来ることあればと思います。

これから水戸市と台南市との更なる飛躍、発展を願いたいと思います。



学童の子供たちには少しでも台湾を感じてほしいと、ホテルの近くの文房具店で、国語作業簿（漢字練習帳）、絵童話（塗り絵）をお土産に。滞在中は、沢山の写真を添えて、LINEで台南の様子を子供たちに伝えていました。この先、子供たちが大人になり、水戸市と台南市との交流に関わってくれることを夢見ております。



台南市友好交流都市締結使節団に参加して

水戸市議会副議長 高倉 富士男

このたび、水戸市と台湾・台南市との間で国際友好交流都市の盟約が締結される運びとなり、令和6年11月21日から渡台する水戸市使節団の一員として参加させていただきました。

台南市は台湾の南西部に位置し、台湾島でも早くから開けた地区の一つで歴史ある街で、現在は台湾六大直轄市の一つとなっており、人口規模も約185万人に上る台湾有数の大都市です。マンゴーやパイナップル、サトウキビなどの生産が盛んであるとともに、近年は半導体などのハイテク産業の拠点としても広く知られています。

成田から高雄空港まで空路で約3時間半、降り立った台湾の地は半袖でも十分なくらいの温暖な気候で南国特有の空気を感じます。また、宿泊するホテルに向かうバスの車窓から眺める街や人々の姿から活力を感じ、また、台湾らしい異国情緒あふれる街の様子にも魅了されました。

水戸市と台南市との友好交流都市協定の調印式は、11月22日、台南市政府庁舎において行われました。今回の調印式には、高橋靖水戸市長や大津亮一水戸市議会議長をはじめ、議会からの代表メンバー、そして応募で集まった水戸市民の皆様など総勢71名の使節団が参加。私も市議会副議長として歴史的瞬間に立ち会わせていただきました。

水戸市の訪問団に対し、台南市の黄偉哲市長や関係者の皆様も熱烈に歓迎してくださいり、黄市長自ら訪問団一人ひとりと名刺を交わすなど、和やかな雰囲気の中で、今後の両市間における文化、スポーツ、農産物等、さまざまな分野での交流を推進していくことを互いに確認することができました。また台南市からは、水戸市出身の故杉浦茂峰氏が祀られている飛虎將軍廟がある地区の道路を「水戸街」と命名することがサプライズで発表され、台南市からの思わぬ贈り物に使節団の感激もひとしおでした。

台南市での滞在中には飛虎將軍廟にも参詣しました。地元関係者の方々より、第二次大戦中に自らの命と引き換えに台南市民を救った杉浦茂峰氏のお話を伺うとともに、今もなお、市民の皆さまが杉浦氏の功績を讃え「飛虎將軍」として語り継ぎ、守り続けておられ



ていることに、台南市の皆様の赤誠に触れる思いがしました。

また、こうした歴史の延長線上に今回の両市の友好交流都市締結があることを改めて感じ、先人への感謝の念を深くいたしました。これからも相互の交流の積み重ねを大切にしながら、両市のさらなる発展につながる取組みが進んでいくことを念願してやみません。

結びになりますが、この度の水戸市の使節団に対しまして、両市の関係者の皆様に多大なるご支援ご協力を賜りましたことに心より御礼を申し上げます。



台南市政府訪問

水戸市議会議員 田口 文明

令和6年11月21日から11月24日3泊4日で、台湾台南市を友好交流都市締結のため使節団の一員として台南政府を訪問しました。執行部をはじめ市議会議員、公募した一般市民併せて総勢70人余りで訪れました。

初日は、成田空港から高雄空港を経て台南市へ。

二日目は、台湾で神として祀られている水戸出身杉浦茂峰氏の飛虎將軍廟参拝後、台南市政府庁舎にて友好交流都市調印式に参列しました。

本来はそれぞれの市長が一対一で調印式に臨むところ、水戸市側は参加者70名全員が同席したことで、台南市長は大変喜ばれ、自ら、全員に声をかけて頂きました。

水戸市民との交流が図られ、この雰囲気で台南市との交流がますます深まることを願うものです。

三日目、日本人が造った烏山頭ダムを視察、国立台湾歴史博物館等を視察。

四日目、帰水。

台南市との友好交流都市が締結され、台南市との交流が一層盛んになることは大変うれしいことであり、今後さらに、台湾との交流が深まり、台湾の抱える国際情勢の中で少しでも力になれることを願ってやみません。

充実した訪問がありました。



国際交流促進の実現

水戸市議会議員 須田 浩和

水戸市は他市に例を見ない国際交流の拠点を持つ都市であり、これまでもそれを中心に国際交流の政策を進めてきました。そういう中で、私は国際交流のさらなる進展の必要性を感じ、議会でも取り上げてきました。また、特に近隣の国の都市との交流は、昨今の経済的なつながりも含めた、新たな国際交流の在り方を求めるために重要な課題であると考えてきました。

そういう中、水戸市と台南市は飛虎將軍（杉浦茂峰）の縁もあり、長い間民間交流が続けられてきたもので、最適な選択だと思っていました。これまでの議会においても積極的に民間交流の後押しをしていくと答弁されてきた土壌もあり、私は初めて令和5年6月の議会で友好交流都市の締結を提案したところであり、その実現は大変歓迎するものであります。台南市訪問時は、その縁であります、飛虎將軍廟に参り、その後調印式に出席いたしました。台南市議会から多くの歓迎を受け、これまでの感謝やこれから交流の在り方等、多くの意見を交わしてきました。

また、これからは、この友好交流都市締結が友情の確認だけにとどまるのではなく、これから経済的な結びつきにもつながるべく、農業分野、工業分野、観光の面などの可能性についても多くの意見を交わし、有意義な時間となったものであります。



台南市友好交流都市締結使節団に参加して

水戸市議会議員 黒木 勇

11月22日、台南市庁舎において、高橋靖水戸市長を団長とする使節団と黄偉哲台南市長による、友好交流都市締結調印式が挙行されました。水戸市民の皆様と共にこの調印式に立ち会えたことは、私にとって大きな喜びです。黄市長は、私ども使節団一人ひとりと名刺交換や挨拶をして下さり、その丁寧さに感銘を受けました。更にはサプライズで、飛虎將軍廟がある安南区の道路を「水戸街」と命名してくださったことが発表され、感謝の思いでいっぱいになりました。

私たちは、調印式に先立ち、飛虎將軍廟を訪問しました。正殿には本尊

「杉浦茂峰」の神像、両側には分身二体が奉安されていました。地元の管理

委員会の方々により廟の管理が行なわれており、朝夕二回、煙草を七本点火して神像に捧げたうえで、朝は日本国家「君が代」、午後は軍歌「海行かば」を流してくださっています。今回、私たち使節団は、廟守の方々と「君が代」と、「海行かば」「ふるさと」の曲が流され斎唱してささげました。飛虎將軍・杉浦茂峰少尉の当時のお心を偲ぶとともに、地元の方々により本尊として祀り大切にしていることに、深甚なる感謝の念を抱きました。

翌11月23日、烏山頭水庫の視察を行いました。ダムを見下ろす北岸に、日本式の墓があり「八田與一、外代樹之墓」と刻まれ、墓の前には作業着姿で腰を下ろし、片膝を立て

た八田與一の銅像が建っており、墓も銅像もこのダムを造った八田與一を敬愛する地元農民が作ったものとの説明を受け、地元の方々を大切にしていた八田與一の人間性とその功績に思いを馳せました。また、大正11年から現場に住み込んで工事事務所の所長として指揮を執り、盛り土で作り上げる土石を水圧で固めながら築造するという、当時世界最新



のセミハイドロリック・フィル工法が採用されており、技術力の高さを感じることができました。

その後、10数万点に及ぶ文化資料が収蔵されている国立台湾歴史博物館を視察し、過去から現代までの歴史を学ぶことができました。

今後も末永く、台南市との交流が継続発展し、様々な民間交流を行うことが必要であると感じました。団長の高橋市長、大津議長の下で素晴らしい団員の方々に出会え、大変に有意義な充実した交流ができたことに感謝いたします。そして、この度の事業の企画運営を行っていただきました水戸市国際交流協会の皆様、関係各位の皆様に心より感謝いたします。誠にありがとうございました。



交流深化の台南訪問

水戸市議会議員 鈴木 宣子

台南市との友好交流都市締結の調印式が、今にも始まろうとしたとき、台南市の黄市長が会場に入るや約 70 人の使節団一人ひとりの席に出向き名刺を渡しながらご挨拶をされました。この光景は胸に焼き付き忘れることができません。人と人、心と心のつながりを大切にされていることに感動いたしました。

時代が変わり人が変わっても、この一点は変えてはいけないと心に深く刻んだ瞬間でした。台南市の方々が心を大切にされていることを実感したのは、調印式の前に訪れた「飛虎將軍廟」での行事でした。1944 年 10 月 12 日杉浦茂峰少尉（飛虎將軍）の乗っていた零戦は敵弾を受け爆発が寸時に迫る中「今、落下傘で飛び降りたら自分は助かるかもしれない、しかし、何百戸という家屋は焼かれ多くの人の命が奪われる」杉浦少尉は、とっさに機首を上げて、人家のない畑へ墜落、戦死。その後、台南の人々の命を救うために自分の身命を犠牲にした杉浦茂峰少尉を「飛虎將軍」として顕彰しました。建立された鎮安堂には、毎日参拝者が多く来られ、日本からの参拝者も年中絶えない、とのことでした。台南の人々が大事に守ってくださり、感謝されている光景に、私は鎮安堂で杉浦少尉に手を合わせながら、杉浦少尉と台南の方々に感謝の気持ちで祈りを捧げました。

そして、次の日には、石川県金沢市生まれの八田與一氏が、台湾総督府土木局に赴任後、八田氏がリーダーとして建設したとされるダムと灌漑用水路を視察しました。日本ではあまり知られていませんが、台湾にとっては恩人ともいえる人物です。1910 年代当時、台湾は農業の生産性が低く、農民の生活が苦しいことを知り、実に 10 年がかりでダム、灌漑用水路の大事業を 1930 年に完成させました。八田氏は 44 歳の若さでした。恩恵を受けた嘉南平原に住む 60 万人の農民は「神の水が来た」と感激の涙を流した。と伝えられています。

現地を視察して、広大なダムを見ながら、八田氏の偉大さを肌で感じることができ、八田氏の銅像の前で、「本当に疲れさまでした。」と伝えることができました。現地では、56 歳で亡くなった八田氏の命日には、法事が行われ銅像には花束が埋もれんばかりに供えられている。とのことでした。



行く先々で、心優しき日本人が台湾、台南市に尽くしていたことに対して改めて、先人への感謝と、次に続く私たちの使命を自覚いたしました。

50名に及ぶ市民の皆様とご一緒できしたこと、様々なお話をできましたこと、台南市訪問の貴重な体験とともに、大切な思い出となりました。ありがとうございました。

台南市友好交流都市締結使節団に参加して

水戸市議会議員 小泉 康二

2024年11月22日、水戸市と台湾の台南市が友好交流都市を締結するにあたり、水戸市議会議員として友好交流都市締結使節団に参加する機会をいただき、心から感動しています。この歴史的な出来事に議員及び使節団の一員として立ち会えたことは、私にとって大きな誇りであり、今後の両市の発展に向けた新たなスタートに立つことができたと感じています。

特に印象的だったのは、台南市が持つ深い歴史と文化、そして飛虎將軍こと杉浦茂峰氏の偉大な功績です。

杉浦氏は、第二次世界大戦中に台湾で活躍し、地元の人々にとって英雄的存在です。彼の物語は、日台の歴史を越えた深い絆を象徴するものであり、私たち日本人としてもその歴史を尊重し、今後の交流に生かしていくことが大切だと改めて感じました。

水戸市と台南市の友好交流都市締結は、単なる行政間の協定ではなく、両市の市民同士がより深く交流し、文化や経済の発展に寄与する大きな一歩です。私たち水戸市から台南市への訪問を通じて、両市の友好関係が強化されることを確信しています。議員として、今後の交流を支えるために、私たちが積極的に橋渡し役となり、市民同士の理解を深めるための施策を進めていくことが重要だと強く感じました。

また、台南市の人々の温かい歓迎を受け、両市がどれほど深い友情で結ばれているのかを実感しました。今後は、文化交流や観光、教育分野などさらに多くの協力の機会が生まれ、市民レベルでの絆が深まるこことを心から願っています。

この友好交流都市の締結を契機に、両市の歴史的なつながりを再確認し、未来に向けた新たな友好の架け橋となるよう、私自身も積極的に関わっていきたいと思います。そして、台南市との友好関係がさらに発展し、両市の市民にとって素晴らしい成果をもたらすことを心より願っています。



台南市政府訪問を終えて

水戸市議会議員 締引 健

私自身、人生三度目の台湾訪問。この度は、水戸市と台南市の友好交流都市締結使節団の一員として参加させて頂きました。

記録的猛暑となった今年、水戸を出発した11月末は流石に肌寒かったものの、台南現地に到着すると、一軒、湿気も無く、半袖でも過ごせるほどの大変心地よい気候でありました。

訪問2日目には、故杉浦茂峰氏が祀られている飛虎將軍廟を参拝。過去訪問をさせて頂いた時に御世話になった方々と再会し、旧交を温めるとともに、現地の方々に変わらず丁寧にお祀り頂いていることに改めて感謝の意を表させて頂きました。また、今回参加した各種団体に所属する方々と協働で、更なる民間交流促進のための企画等についても話し合うことが出来ました。その後、オランダ人と漢人の衝突事件である郭懷一事件の後に築城され、鄭成功が台湾を占拠した後に台湾全島の最高行政機関となった赤崁樓せっかんろうを見学しました。現在は国定古跡に指定され、今回は大規模な修繕工事が行われていましたが、台南市の歴史を物語るとともに東洋と西洋の文化が融合した貴重な建造物に異文化の香りを体感することができました。

午後には、今回のメインイベントである調印式を行うため台南市役所を訪問。台南市が世界各都市と友好を結ぶ都市の展示物等を見学させて頂いたのち、黄偉哲台南市長自ら、我々使節団全員一人ずつお出迎えを頂き、厳肅な雰囲気の中、滞りなく友好交流都市締結の儀式が行われました。

訪問3日目は、日本人技術者の八田與一氏により建設された烏山頭ダムと国立台湾歴史博物館を視察。日本と台湾の永い友好の証と現地の歴史を改めて学ぶことが出来た貴重な時間となりました。

過去二度の台南市議会との交流、そして今回同行をさせて頂いた全ての団員の皆様とともに、政治・経済・文化・スポーツ等において更なる交流を強く推し進める機運を高める有意義な訪問となりました。

改めて今回ご一緒させて頂きました団員の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、更なる両市の発展を祈念し、ご報告とさせて頂きます。誠に有難うございました。



台南市友好交流都市締結使節団に参加して

水戸市国際交流協会副理事長 櫻庭 紀久子

水戸使節団の一行は、調印式に先立ち、水戸市と台南市との友好交流都市締結のきっかけとなった水戸市出身の「杉浦茂峰少尉」が祀られている「飛虎將軍廟」を訪れました。彼は、戦時中、台湾沖航空戦で米軍機から銃撃を受けて、そのまま墜落すれば民間人に大きな被害が及ぶと考え、眼下の集落への墜落を避けるため、郊外に向けて機首を上げ、畑の中に墜落し戦死したと言われています。台南市の人々は、自分を犠牲にしてまで市民を守った行為に感動し、「飛虎將軍廟」を建立し、今では神として祀られている姿を拝見し、台南市の人々の思いに感慨深いものを感じました。



その後、今回の訪台の目的である台南市との友好交流都市締結調印式に参列するため、台南市役所を訪れました。市役所では、台南市の黄偉哲市長をはじめ、市の関係者の方々に大歓迎を受け、調印式にあたり、台南市長自ら、我々71名の水戸市使節団一人ひとりに挨拶して頂き、その丁寧な対応に人となりを感じ、大変感激しました。調印式は、台南市長をはじめ台南市の関係者の方々と水戸市長をはじめ使節団総勢71名が見守る中、緊張感の中にも晴れやかな雰囲気の中で行われ、感動で身の引き締まる思いでした。調印式の後、台南市長より、先程訪れた飛虎將軍に近いエリアの道路を「水戸街」と命名したとの報告を受け、その心遣いに感動しました。

次の日に訪れた「烏山頭水庫風景区」では、日本の統治下において、台南の地に生活の要であるダムと灌漑水路を造ることに人生を捧げた日本人技師「八田與一」の偉業や人となりを知ることができました。ここでも台南市の人々の八田與一技師に対する深い思いを感じ、胸が熱くなりました。

次に「国立台湾歴史博物館」を視察し、日本統治時代の展示物を見て、平和の大切さを改めて痛感しました。

今回の台南市友好交流都市締結使節団に参加して、台南市の人々の温かいもてなしに触れ、また、日本統治時代に台南市の人々のために尽くした日本人への感謝の心に触れて、「相手への思いやり」、「感謝の気持ち」が平和への大きな力となることを強く感じ、次の

世代に繋げる活動の必要性を感じました。今後、水戸市と台南市との国際交流を通じて、更なる交流の絆が深まることを願ってやみません。

最後に、今回の台南市友好交流都市締結使節団訪問に対し、ご尽力いただいた両市の関係者の方々に深く感謝いたします。

台南市訪問を終えて

水戸市市民協働部長 小嶋 いつみ

3泊4日の台南市友好交流都市締結使節団の訪問が、団員の皆様のご協力で、無事目的を達成できたことに、事務局のメンバーとして、心から感謝申し上げます。

71名もの大人数の訪問団ということで、行程通り進むのか、トラブルに巻き込まれないか、などの心配がありましたが、杞憂に終わってほっとしているところです。

メインの行事である、台南市との協定締結調印式においては、台南市長が、団員一人ひとりの席をお回りくださり、名刺をお渡しいただくなど丁寧なおもてなしをいただいたことをはじめ、調印式の際には、台南市に「水戸街」と命名した道路を都市計画として計画決定されたというサプライズ発表をしてくださいました。また、最終日の夕食会場まで、団員全員へ果物のプレゼントを送ってくださるなど、台南市長からの心温まる歓迎をいただき、大変感動をいたしました。

また、水戸出身の飛虎將軍の廟にもお参りができ、地元の方々に手厚くまつられていることを体感できたことも、今回の視察の大きな収穫であったと感じております。

台南市は、自然豊かな環境を有し、歴史的史跡が存在する町であり、古い文化と新しい文化が混在する、これからますます発展していく都市の印象を受けました。

こうした発展を遂げる台南市との交流が、このたびの友好交流都市締結を契機として、今後ますます盛んになることを期待しております。

あわせて、水戸市が締結する国際親善都市と気軽に行き来でき、交流ができる平和な社会が持続していくことを心から願っております。



台南市友好交流都市報告書

水戸市議会事務局事務局長 大久保 克哉

台南市は、台湾で最も古い都市であり、人口約185万人の大都市です。中心市街地には百貨店や大型商業施設が建ち並ぶ中、城塞や寺院など歴史的建造物が数多く残り、美しい街並みと見事に調和された、どこか懐かしさを感じさせる魅力溢れる都市でした。また、街中にはいくつもの「夜市」と呼ばれる屋台村が設営されており、名前のとおり夕方になる開店し、若者を中心に多くの人々で賑わい、熱気と活気に溢れておりました。交通事情においては、自動車を中心としつつも、老若男女を問わずスクーターを日常的な移動手段としているようで、群れをなすその台数の多さと行き交うスピードには大変驚かされました。

今回の台南市友好交流都市締結使節団には、市議会の事務局職員の一員として参加いたしました。台南市庁舎内に設けられた調印式会場では、台南市関係者の皆様から温かな歓迎を受け、座席には日本語表記での名札と記念品をご用意いただきましたなど、細やかな心配りに感激いたしました。さらに、黄偉哲台南市長自らが各座席を巡られて、私たち71名の一人ひとりと丁寧に御挨拶と名刺交換を行ってくださいました。思いがけないおもてなしに、誰もが驚きと喜びを感じたのではないでしょうか。

調印式でもサプライズプレゼントが用意されておりました。黄市長のスピーチの中で、「飛虎將軍廟」がある安南区内に新たに設置する道路名を「水戸街」と命名するとの発表があり、会場は大きな歓声とともに、感謝を表す拍手に包まれました。厳粛な両市の協定書調印の場に立ち会う緊張感とともに、両市政のあゆみの1ページに残る大きなイベントに参加できた喜びを実感いたしました。

台南市は国際交流に非常に積極的であることは広く知られており、世界中の各市と友好交流都市等の協定を結んでいます。今回の水戸市との締結で実に57都市目となります。庁舎内には各市との調印の経緯や交流活動の状況を紹介するコーナーが広く設けられており、写真パネル、贈呈品等が多数展示されていました。おもてなしや歓迎をはじめ、職員の応対は熟練されており、国際交流事業に全市をあげて取り組んでいる表れだと強く感じました。

今後両市の取組みとしては、文化・歴史・スポーツ分野に加え、農産物の輸出入など経済的な結び付きがより強固になり発展が期待されます。県内では既に土浦市と那珂市が台南市と協定を締結しているほか、茨城県が2024年度から台湾をインバウンド重点市場に設定し、茨城空港を就航先とする高雄市や台北市からの誘客促進のための取組をスタートいたしました。今後は3市と県の連携・共同による大規模かつ継続的な施策の展開も大い

に期待できるところです。

台南市との友好交流都市締結が、「未来につながるみとづくり」の実現と飛躍へつながることを確信するとともに、私も微力ながらその取組みや活動に携わりたいとの思いを強くいたしました。



台南市との友好交流に寄せて

水戸市市民協働部文化交流課長 上原 純大

私は、台南市友好交流都市締結使節団に水戸市事務局として参加をさせていただきました。

本市は、これまでに、1976年にアナハイム市、2000年には重慶市と盟約を締結しており、今回の台南市との友好交流都市締結は、24年ぶりの歴史的な出来事となりました。

台南市との交流のきっかけは、ご存じのように、本市出身の杉浦茂峰氏が、「飛虎將軍」として、台南市の皆様によって手厚く祀られてきたことがあります。

私が、「飛虎將軍」という言葉を初めて見たのは、2013年に長崎県平戸市から届いた台南市との交流を提案する文書においてです。文書には、台南市において杉浦茂峰氏が「飛虎將軍」として祀られているとあったことから、杉浦氏について調査を行った記憶があります。こうした個人的な経緯もあり、実際に飛虎將軍廟を訪問した際には、杉浦氏が異国での尊敬の念をもって祀られている様子に深く感銘を受けたほか、そして、友好交流都市締結という記念すべき節目に携わる機会をいただけたことは、大変貴重な経験ともなりました。

台南市との友好の絆は、これまでに多くの方が関わり、相互に交流を重ねることによって築いていただいたものです。紛争が未だに解決しない地域がある中には、人と人との絆を深める国際交流の重要性は、ますます高まっていくものと考えます。友好と平和を次世代へつなげていくためにも、国際交流活動を通して、異なる文化や価値観に触れて相互理解を深めることが大切だと思います。

次に、台南市の視察を通して、印象に残ったことになりますが、訪れた台南市内には、コンビニをはじめ、飲食やファッショなど、日本の文化を感じられることが多く、まちなみには古き良き日本をどことなく思い出させる雰囲気もあります。一方で、日本とちょっと違うと感じたことは、通りには電柱や電線がなく、すっきりとしたまちなみを形成しているところです。国土交通省のホームページで調べると、台湾の無電柱化は日本よりもかなり進んでいることがわかります（参考：国土交通省HPより。台北市はケーブル延長ベースで約95%の整備）。日本と同様に、台風や地震等の自然災害が多い地域であることからも安全安心なまちづくりや、台南市においては国定古跡を数多く有することから、歴史的な景観を生かしたまちづくりも進んでいるように感じました。これからも、お互いのまちづくりの良いところを学びあいながら、両市の抱える行政課題の解決やまちのさらなる発展につなげていければと考えます。

結びに、今回大変お世話になりました使節団の皆様、台南市関係者の皆様の御支援・御

協力に心から御礼を申し上げます。

誠にありがとうございました。



台南市友好交流都市締結使節団に参加して ～飛虎將軍のつないだ「縁」～

水戸市産業経済部観光課長 出沼 大

「飛虎將軍」という言葉を耳にしたのは、今から約10年ほど前のことであったと記憶している。

「台湾・台南市で神様として祀られている水戸市出身の零戦パイロットの方のこと、『飛虎』は戦闘機の意味だ。」

そう話す元上司がくれた数々の飛虎將軍廟関係の資料。そのうちの1枚の写真に見入った。

杉浦茂峰大日本帝国海軍飛行隊兵曹長（戦死後に少尉昇進）――。

どこか少年らしさの残るその若者の凜としたまなざしは、静かに前を見据えていた。
「遠い異国之地で、はかなくも命を落とした若者が、なぜ神として祀られているのだろうか」当時、市の広報・イメージアップ担当であった私は強く興味をひかれた。

その後、2016年春に台中に業務で訪れた際、台南市内の飛虎將軍廟を撮影する機会に恵まれた。

水戸市の腕章をして撮影していると、それを見た同廟の担当の方が日本語に堪能な方を連れてきてくださった。その方が現在、同廟の管理委員会の代表を務めておられる郭秋燕さんであった。郭さんからは、杉浦さんが地元の海尾集落への被害を防いだこと、集落の皆さんによって感謝され、手厚く祀られていることなどを伺った。

また、2016年秋には、この「飛虎將軍」とこと、杉浦さんを里帰りさせたいということで、同廟の管理委員会の皆さんと、飛虎將軍の御神像とともに水戸に来られた。「飛虎將軍」は、護国神社を訪れたほか、生家付近の五軒町を神輿に載って巡られた。私は、この時も撮影を担当させていただいた。映像などを編集しながら「飛虎將軍」がつないだこの「縁」がいつもでも続くことを願った。

そして、コロナ禍を経て、2024年。台南市・水戸市は、両市議会の合意のもと、友好交流都市を締結することとなった。私も台南市友好交流都市締結使節団に水戸市事務局側として加えていただき、台南市を訪問するという素晴らしい機会に恵まれた。

11月22日の締結式において、黄偉哲台南市長は、使節団の一人ひとりと名刺交換の後、「文化、歴史、スポーツ、農産物による交流を進めていきたいです」とあいさつ。また、サプライズで「締結を記念して、11月21日付けで、飛虎將軍廟が所在する安南区の

道路を「水戸街」と命名しました。」と発表された。高橋靖水戸市長は「これまで積み重ねてきた交流に加え、こどもたちの国際教育の充実や観光交流の促進など、両市の発展につながる友好交流の取組みも進めていきたい」と話された。私は、この様子も撮影させていただきながら、「飛虎將軍」がつないだ「縁」が結実し、両市の発展と市民のさらなる交流を促進するものとなることを実感した。

使節団は、この締結式の前には「飛虎將軍廟」を見学し、管理委員会の皆さんとともに祈りを捧げた。そして、全員で「君が代」と「海行かば」に加えて「ふるさと」を合唱した。

「飛虎將軍」こと杉浦さんはどのような思いで聞かれたことだろうか。

私は、最後に、ヘビースモーカーであるとされる飛虎將軍のために、日本から持参した煙草を供え、鎮魂の祈りと感謝の気持ちを捧げた。

私は市の広報・イメージアップ担当を経て、2024年から、水戸市の観光課長となり、観光行政を担当している。自分に何ができるのか、自問自答を繰り返す日々である。そのような中、この使節団に、参加させていただいて、歴史の重みと人の交流の大切さを改めて感じた。

水戸市・台南市の「光を観る」方が多くなるよう、自分なりに努力を重ねていきたいと思う。

最後に、使節団の皆様、台南市関係者の皆様に心からの感謝を申し上げ、台南市友好交流都市締結使節団参加の報告とさせていただきたい。



友好の絆が拓く新たな交流に期待して

水戸市議会事務局総務課長補佐 鈴裏 郁恵

台南市との友好交流都市調印式において、水戸市と台南市の結びつきが形となる瞬間に立ち会えたことに感動しました。

調印式では、両市の市長が互いの文化や価値観を尊重し合い、未来への協力の意義を語り合う様子が非常に印象的でした。このような国境を越えた交流は人々の絆や理解を深める重要な役割を果たしていると感じました。

また、台南市からのサプライズとして、市内の通りに水戸の名前を命名したとの発表があり、両市の絆の深さを象徴する贈り物だと感じました。

視察では、台南市の歴史や文化を学びました。飛虎將軍廟では、日本統治時代に命を落としたパイロットが神格化されていることに驚き、戦争が多く悲劇を生む中、国境を超える台湾の人々の温かい心と対応が存在したことに感動しました。

烏山頭水庫では、八田與一氏が地域住民と協力してこの施設を築き、台湾農業の発展に大きく貢献したことを知りました。彼の功績と人柄を紹介する展示からは、困難を乗り越えた情熱と信念が伝わり、地元住民から今も敬愛される姿に心を打たれました。

国立台湾歴史博物館では、先史時代から現代に至る台湾の多文化的な歴史を体系的に学びました。特に先住民文化や日本統治時代の展示から、台湾の社会が複雑な歴史的背景を持ちながらも、多様性を受け入れ発展してきた姿が感じられました。

これらの訪問を通じ、台湾の豊かな文化や歴史の深さ、そして自然との調和を大切にする姿勢を学び、台南市の人々の柔軟性や温かさに触れたことで、両市の関係がさらに発展していく可能性を強く感じました。

4日間の訪問で、水戸市と台南市の友好都市関係の意義を改めて確認し、互いの文化や歴史を尊重し合う交流が市民や地域社会に良い影響をもたらすと感じました。今後両市が交流を通じ共に発展し続けることを期待し、今回の訪問の報告とさせていただきます。



台南市友好交流都市締結使節団に参加して

水戸市市民協働部文化交流課交流係長 成澤 知美

今回の台南市友好交流都市締結使節団に事務局のメンバーとして参加いたしました。

渡航前に、茨城台湾総会の方々にお話を聞く機会があり、水戸市と台南市の似ている点や、台南市のおすすめの食べ物や観光スポットについて伺いました。その中で、「飛虎將軍廟」について知っていたかを聞いたところ、「つい最近まで知らなかった。台湾では、個人で廟を建てる風習があり、比較的簡単に建てることができる。」というお話をでした。

実際に台南を訪問し、市内をバスで移動していると、数多くの廟を目にしました。また、多くの廟が電飾で飾られており、夜になるとイルミネーションのように市街を照らしていた点が強く印象に残りました。

杉浦茂峰氏を祀る「飛虎將軍廟」を訪れた際には、これまで、廟の外観は写真等で見たことがありましたが、実際に訪れてみると、道路に接した場所に建っており、また、民家や商店に隣接してまちの一部として存在していることに驚きました。近隣に小学校があることからも、台南市民にとって、信仰が非常に身近なところにあるという印象を受けました。また、台南市海尾朝皇宮管理委員会によって、飛虎將軍が現在も地元の守り神として手厚く祀られていることも体感することができました。

今回の台南市訪問により、台南市の方々の生活に実際に触れることができ、台南市に対する理解が深まったと認識しております。今回の貴重な経験を、今後、市民の皆様に台南市について理解を深めていただき、市民レベルの交流活動をさらに活性化していくための取組の推進に活かしてまいりたいと思います。





資料編



飛虎將軍廟にて



台灣の人々を守るため、 自身の命を投げ出した 戦闘機パイロット

為了保護臺灣百姓的生命安全，做出自我犧牲的日本戰鬥機飛行員

The fighter pilot who sacrificed his life to protect Taiwanese people

飛虎將軍・杉浦茂峰の生家跡地

飛虎將軍・杉浦茂峰の誕生地舊址／Birthplace ruins of the HIKO general Shigemine SUGIURA.

1944年10月12日早朝、米軍機が台南に来襲した。これに対し、日本軍は応戦するも、数に勝る米軍に苦戦を強いられる。杉浦少尉の戦闘機も敵弾を受けて尾翼から出火。機体爆発が迫る危機に見舞われた。眼下には集落が広がっている。

「そのまま墜落すれば、民間人に大きな被害が出るー」

集落への墜落を避けようと、杉浦少尉の戦闘機は、いきなり機首を上げ、上昇態勢を取った。その後、機体が空中爆発する直前、落下傘で脱出したが、米軍機の機銃掃射を浴び、戦死した。

1944年10月12日清晨，美軍戰機對臺南市進行了空襲。日軍派出戰鬥機應戰。由於美軍戰機的數量占優勢，杉浦少尉駕駛的戰鬥機被美軍戰機擊中，尾翼中彈起火，機體有爆炸的危險。此時戰鬥機下方是壹片民宅，如果這時棄機跳傘，戰機將墜落在民宅區域之內，對當地百姓造成重大的傷亡。為此，杉浦不懼危險，將戰機拉起，使其處於上升姿態，在機體爆炸之前，杉浦跳傘脫離戰機，但不幸被美軍戰機的機槍掃射擊中而身亡。

The U.S. warplanes began to attack Tainan early morning on October 12, 1944. Though the fighter planes of Japanese army fought back against it, they were forced into a hard fight because of a large number of U.S. warplanes. The fighter plane of Second lieutenant SUGIURA was also damaged by enemy's bullets, so that he faced to the danger of airframe explosion because a fire broke out in its tail assembly. And there was a village below his eyes. "If this plane crashes, a lot of civilians will suffer great damage."

In order to avoid crashes, he raised the nose of plane and got ready for rising. And then he ejected from the plane by a parachute just before its explosion, but the U.S. warplane raked with machine-gun fire and he was killed.



杉浦 茂峰 (すぎうら しげみね)

1923年11月9日-1944年10月12日

茨城県水戸市出身。五軒尋常小学校、三の丸尋常高等小学校卒業。現在地は、杉浦茂峰の生家である。1944年10月12日に米軍と交戦し、戦死。死後功6級金鵄勲章と勲7等桐葉章が授与された。



飛虎將軍として、 今も台灣の人々に 祀られている

飛虎將軍至今仍被臺灣的民眾所祭奠

Taiwanese people worship him as a HIKO general even now.

自らの命も顧みない行動が台湾の人々の尊崇を集めた。このため1971年に台湾の人々によって祠が建設され、1993年に現在の飛虎將軍廟に再建された。

飛虎將軍廟では、朝に「君が代」が流れ、廟内には日本の国旗が立てられている。また、杉浦少尉の生誕記念祭などの関係行事が毎年4回行われているほか、飛虎將軍の話が、地元の小学校の教科書に掲載されるなど、多くの人々に愛されている。



杉浦少尉為了保護地面人民的生命財產而不顧自己生命的英勇行為，被當地百姓廣為稱頌和敬佩。1971年，在眾多百姓的倡議下，建造了紀念祠廟。1993年改建為現在的飛虎將軍廟。該廟每日早晨放送君之代並在廟內樹立了日本國旗。同時每年在杉浦少尉的生辰之日等重大日子裏還舉行各種紀念活動。在當地小學的教科書裏也有關於飛虎將軍的事跡等內容。飛虎將軍杉浦少尉被當地的廣大居民所愛戴，其英勇事跡被世代流傳。

He is still worshipped by Taiwanese people for the action sacrificing his life. So they constructed the hokora (a small shrine) in 1971 and reconstructed HIKO general's mausoleum in 1993.

Japanese National Anthem "Kimigayo" is played in the morning and a Japanese national flag is put up inside the mausoleum. And they hold four events a year such as birthday festival of Second lieutenant SUGIURA as well as publish the textbooks including a story about him for the local elementary school students. He is loved by a lot of Taiwanese people like that.

----- 平成 28 年 水戸市作成

日本海軍の兵曹長だった杉浦茂峰氏は、1944（昭和 19）年 10 月 12 日、台湾台南市上空でアメリカ空軍を迎撃つも撃墜され、海尾の集落を避けて、畑の中に落ちて戦死したとされます。杉浦氏は本市出身で、五軒尋常小学校、三の丸尋常高等小学校を卒業しています。第二次世界大戦後、海尾寮集落において、白い帽子と服を着た日本の若い海軍士官が枕元に立っているという夢を見たという者が数名ありました。その後、集落の有志が集まり、その海軍士官が部落を戦火から救うために、自分の生命を犠牲に集落を守った恩人として、1971（昭和 46）年に杉浦茂峰氏を祀るために祠を建設しました。

1993（平成 5）年には、台南市海尾朝皇宮管理委員会において廟に建て直され、現在も地元の守り神として地元住民により手厚く祀られ、廟は多くの旅行者が訪れるスポットとなっています。

※「飛虎」は戦闘機を意味し、「將軍」は杉浦茂峰氏への尊称です。



台南市との交流年表

2013（平成 25）年 8 月

台南市において地元の守り神として祀られている飛虎將軍こと故杉浦茂峰氏が、水戸市出身ではないかとの情報を得て、調査を開始した。

2014（平成 26）年 4 月

杉浦茂峰氏が、水戸市出身で、五軒尋常小学校、三の丸尋常高等小学校を卒業していたことが確認される。

2015（平成 27）年 7 月

水戸市ドッジボール協会が台南市役所を訪問。ドッジボールを通じた交流の実現に向けて、高橋靖水戸市長と賴清徳台南市長との間で書簡のやり取りが行われる。

2015（平成 27）年 11 月

水戸市スポーツ友好使節団が、台南市小中学校ドッジボール大会に参加。

2016（平成 28）年 2 月

高橋靖水戸市長、経済団体、観光関係者等が台南市を訪問し、台南市役所及び飛虎將軍廟を訪問し関係者等と交流した。

また、台湾南部大地震（同年 2 月 6 日発生）に際し、水戸市内にある 6 つのロータリークラブから台南市に義援金が贈られた。

2016（平成 28）年 9 月

杉浦茂峰氏の生家跡地（旧茨城県信用組合農林水産部：五軒町 2 丁目 1-15）に「飛虎將軍記念パネル」を設置した。

2016（平成 28）年 9 月

飛虎將軍廟を管理する台南市海尾朝皇宫管理委員会関係者が飛虎將軍ご神体里帰りのため来水し、神輿渡御や生家跡地の見学、五軒小学校、三の丸小学校（当時の三の丸尋常高等小学校）の見学等を行った

2019（令和元）年 6 月

台南市からドッジボールチームが来水し、茨城県国民体育大会に先立って開催された「デモンストレーションスポーツ・ドッジボール大会」に参加した。

2019（令和元）年11月

水戸市のドッジボールチームが台南市を訪問し、「アジアドッジボール・チャンピオンシップ」に参加するとともに、市内の小学生とスポーツ交流を行った。

2023（令和5）年11月

水戸市の小学生を台南市へ派遣し、市内視察研修や市内の小学生とスポーツ交流を行った。

2024（令和6）年1月

高橋靖水戸市長が黄偉哲台南市長を表敬訪問し、友好交流推進に関する協定の締結に向けた協議を行った。

2024（令和6）年2月

台南市の小学生を水戸市に招聘し、市内視察研修や市内の小学生とスポーツ交流を行った。

2024（令和6）年7月

水戸市議会議員3名が、台南市で開催された「第10回日台交流サミット」に参加した。

2024（令和6）年8月

高橋靖水戸市長、大津亮一水戸市議会議長ほか市議会議員4名が、黄偉哲台南市長等を表敬訪問し、両市の友好交流推進に関する協定の締結に向けて協議した。

2024（令和6）年11月

高橋靖水戸市長を団長、大津亮一水戸市議会議長を副団長とする71名が台南市を訪問。11月22日、台南市役所において友好交流推進に関する協定の調印式が執り行われ、両市長及び両市議長が友好交流の推進に関する協定書に調印した。

また、調印式において、黄偉哲台南市長より、11月21日付で飛虎將軍廟が所在する安南区の道路を「水戸街」と命名したとのサプライズ発表がなされた。

協定書(日本語)

水戸市と台南市の友好交流推進に関する協定書

水戸市と台南市は、友好交流を推進し、両市民の友情と理解を深め、双方の平和と発展に寄与することを目的として、友好交流の推進について、以下のとおり協定する。

- 両市は、平等互恵の立場で、両市の友好関係を構築する。
- 両市は、歴史・文化、教育、スポーツ、観光をはじめ、各分野にわたって広範な交流を推進するとともに、本協定書の趣旨に合致する民間交流活動を積極的に促進する。
- 両市は、具体的な友好交流事業について、必要に応じて、双方が合意する方法で協議し、実施する。
- 本協定書は、日本語と中国語により作成し、水戸市と台南市双方の代表者による署名をもって効力を発するものとし、各1通を保有する。

2024年11月22日

水戸市長

高橋 靖

台南市長

黃偉哲

水戸市議会議長

大津 亮一

台南市議会議長

邵莉莉

協定書(華語)

水戶市與臺南市促進友好交流協定書

水戶市與臺南市，為促進友好交流，增進雙方市民之友誼與理解，以促進雙方和平與發展，特協議如下：

1. 兩市以平等互惠之立場，建立友好關係。
2. 兩市將促進歷史、文化、教育、體育、觀光等廣泛領域之交流，並積極促進符合本協定書精神之民間交流活動。
3. 兩市將針對具體友好交流項目，如有需要，得以雙方合意之方式，進行協議後實施。
4. 本協定書以中文及日文各製作一式兩份，由水戶市與臺南市雙方代表簽署生效，並由兩市各自保管一份。

2024年11月22日

水戶市長

高橋 靖

臺南市長

黃偉哲

水戶市議會議長

大津 亮一

臺南市議會議長

邵莉莉

水戸街 公示文書

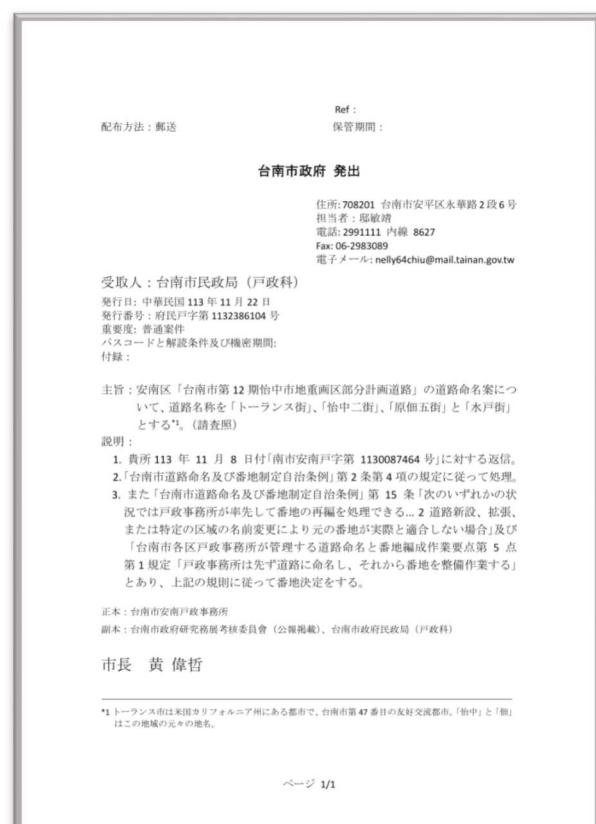
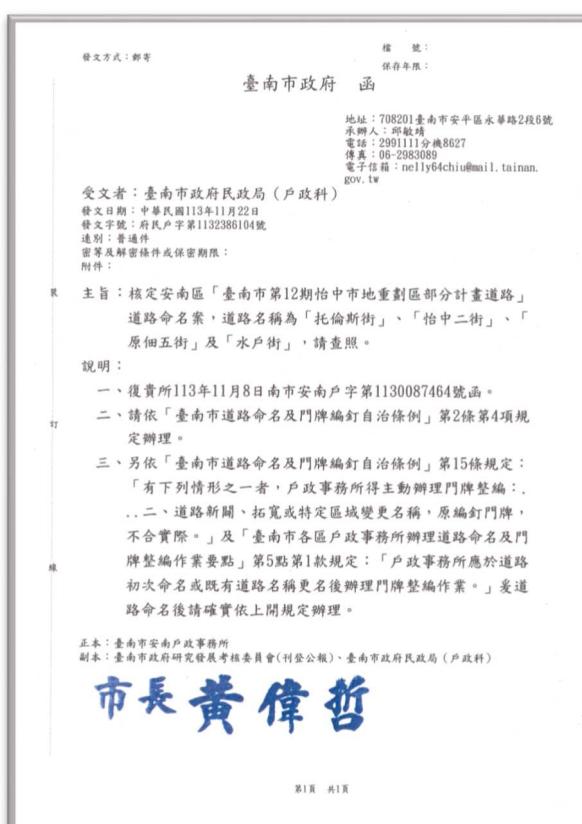
2024年11月22日、水戸市と台南市による友好交流推進に関する協定調印式の席上、黄偉哲台南市長から、飛虎將軍廟のある安南区で、新設の道路に「水戸街」と命名することが発表されました。このことは事前に水戸市側には一切知らされておらず、調印式でのサプライズ発表となりました。

この11月22日に調印式に先立ち、黄市長がこの命名について正式に決定をして公示されたもので、道路名を「水戸街」とする公示書が調印式で披露されました。

場所は、飛虎將軍廟から東北に直線距離で500mほどの場所で、台南市総合農産品批発市場（安南市場）の西側。台南郊外の都市化が進むなかで、商業地や宅地として開発が進むエリアで道路の新設にあたり「水戸街」とされました。台南市内の道路に、友好交流をしている海外の諸都市の名前がついたのは、水戸が初めてのことです。



水戸街の位置



華語

日本語

水戸市からの記念品



水戸市から台南市へ
書「忠」



水戸市議会から台南市議会へ
「羽子板」

台南市からの記念品



台南市から水戸市へ
「蘭の飾り皿」



台南市議会から水戸市議会へ
絵画「台南市議会永華議事庁」

水戸市、台南市と友好協定

両市長、台灣で締結式



水戸市は22日、台湾・台南市と友好交流都市の協定を結んだ。文化やスポーツ、経済などの交流を進める。同市を訪問中の高橋靖水戸市長と大津亮一市議会議長が、黄偉哲台南市長と調印書を交わし、高橋市長は「歴史や給食、経済など、締結を契機に両市の発展に資する取り組みをしていく」と期待を語った。

締結式は台南市役所で行われ、高橋市長のほか、市民らでつくる使節団も立ち会った。黄市長は団員一人一人に名刺交換やあいさつを交わした。今年は「台南400」と銘打つて同市で貿易拠点となる城が造られ

てから400年の節目であることに触れ、「記念すべき年に水戸市と締結できた。文化、歴史、スポーツ、農産物による交流を進めていきたい」と歓迎した。高橋市長は締結日にちなみ、「良い夫婦の日であり、糸

「同市」は「締結に立ち会つて、こうやつて都市が交流していくと分かった。水流していくと、戸市がこれからも、いろんな国とのつながりを持つようになるどううれしい」と話した。

同市は締結を機に21日、
廟がある安南区の道路を
「水戸街」を命名したこと
をサプライズで発表した。
台南市は国際交流に積極的
的な都市で、県内では土浦
市、那珂市と既に協定を締
結。水戸市との協定は57番
目となった。

上調印書を交わした高橋靖水
戸市長(右)と黄傳哲台南市
長下飛虎将軍廟で手を合わせ
る使節団=台湾台南市内

熱烈歓待 心遣いに感動



水戸市の使節団員一人一人と名刺交換する台南市の黄偉哲市長（左から2人目）=同市内

黄市長は使節団に「市民を代表して歓迎する」と述べ、水戸市と締結を記念して市内に新設される道路を「水戸街」と命名したことを発表した。団長の高橋靖水戸市長もこの「締結式」と普段なかなか

黄市長は使節団に「市民を代表して歓迎する」と述べ、水戸市と締結を記念して市内に新設される道路を「水戸街」と命名したことを発表した。団長の高橋靖水戸市長もこの「締結式」と普段なかなか

長は書類を置いて団員一人一人の席に出向き、あいさつや名刺交換を交わした。団員の八木岡慎さん（24）が「一人一人回ってもらおるとは、ぐっときた。黄市長が粹な人だと思った」と話す通り使節団の多くが感銘を受けた。

▽サプライズ

黄市長は使節団に「市民を代表して歓迎する」と述べ、水戸市と締結を記念して市内に新設される道路を「水戸街」と命名したことを発表した。団長の高橋靖水戸市長もこの「締結式」と普段なかなか

回廊パネル、道路に「水戸」

水戸市は11月、台湾南西部にある台南市と友好交流都市の協定を結んだ。両市は台湾で「飛虎将軍」と呼ばれて祭られている旧日本軍のパイロット、杉浦茂峰兵農長（1923～44年）を通じた歴史的なつながりがあり、締結を機に文化やスポーツ、農産物による交流を図る。締結式は市民約70人の使節団が同行した。それぞれの思いを胸に、

台南市は水戸市を含め57の都市や郡などと締結している。今年は「台南400」と銘打ち、1624年に同市に貿易拠点となる城が造られたから400年の節目で、博覧会やフェスの開催による歴

市長が姿を見せた。黄市長に戻ると、台南市の黄偉哲市長が姿を見せた。黄市長が姿を見せた。黄市長はサブ

水戸と台南
友好都市締結
使節団員の声から

■ 1 ■

声から、交流深化の可能性を探る。

浦市や那珂市など11の県と市で結び、加速していた。

水戸市の使節団も台南市から歓待を受けた。締結式が始まる前、団員たちは会場内に友好都市を紹介した回廊を案内された。各都市から贈られた友好的品が飾られ、土浦市と那珂市との協定書も並べられていた。既に水戸市の名と市章を刻んだパネルもあり他都市と比べて、ひときわ大きい表示に団員たちは注目した。

会場に戻ると、台南市の黄偉哲市長が姿を見せた。黄市長はサブ

ライズまで用意して、心遣いがあり、水戸市を重々見てく

れているのではないか」と感心しきりだった。

既に両市の間では訪問団の受け入れやスポーツでの交流が市民主体で進められている。締結を機に小学校同士の交流や台南産マンゴーなど農産物の給食利用といった自治体が関わる形での協力へ広がる。



水戸市は米国のアナハイム市と国際親善都市、中国の重慶市とは友好交流都市となっている。今年4月はアナハイム市長と市議らが26年ぶりに水戸を訪れ、児童とも交流した。来年は重慶市との提携25周年、26年はアナハイム市と結んで50周年を迎える。市民交流をはじめとした事業を検討中だ。市の都市間交流は今後も続いていく。

飛虎將軍廟 交流の象徴



飛虎將軍廟を訪れた水戸市の使
節団＝台南市内

異国の廟での国歌斉唱 団

参拝について、郭さんがこのお宮では毎朝、「君が代」午後は「浪行かば」を流します。皆さんもお願いします

と促す。一行は2曲を続けて斎唱。廟の中では曲と歌声が響いた。「次に飛虎將軍に三札してください」。その後、「ふる」とも歌われた。

▽誇り持つて

郭さんは日本人の訪問を聞きけるといつも駆け付けてボランティアで案内しているという。「日本人が来てくれない」と寂しい。ぜひいろいろ人に訪れてほしい」と語った。

日台交流の象徴となつて、飛虎將軍廟。杉浦兵曹長は、台南の空から廟を訪れる人をどのように見ているのだろうか。

異国之地で響く国歌斉唱

水戸と台南の両市をつなげる最も特徴的な存在は、「飛虎將軍」と呼ばれる水戸市出身の旧日本軍パイロット、杉浦茂峰兵曹長（1923～44年）だ。台南市には杉浦兵曹長を地元の守り神として祭つた飛虎將軍廟があり、訪れた水戸市の使節団は住民の案内を受け、飛虎將軍を通じた交

水戸と台南
友好都市締結
使節団員の声から

■ 2 ■

流の輪を実感した。
台南市の市庁舎から車で北に15分ほど。飛虎將軍廟は多くの車が行き交う市街地の交差点に建てられ、道路を

差しきばに建てられ、道路を挟んだ向かいには夜市の会場があつた。台湾は道教や儒教の民間信仰が多くあり、古い街並みが多く残る台南市は廟が

使節団を台南市でホテルを経営する郭秋燕さん（64）が迎えた。廟は「日本の皆さんよ

「飛虎將軍」の「飛虎」はうつそ」と幕がかけられ、中は廟としての内装だけな

飛虎將軍廟を見て回る団員。芳名帳やスタンプ、すじく、飛虎將軍を紹介した記事のスクラップなどが並べられていた



員からは驚く声が多く聞かれ

た。大橋久絹さん（49）は毎

日歌われている「聞いてび

くり。あのよう

てしっかり声に出して歌えた

のは初めてかもしれない」と

話した。夫の達也さん（49）も

「戦時中のことを

うなずいた。

海外販売支援へ研究会



熱氣あふれる台南市の花園夜市内 家族連れも多く集まる 同市内

水戸と台南
友好都市締結

使節団員の声から

■ 4 ■
も多い。
台南市の場合、開催は曜日
で決められ、週末は身動きで
きないほどの人混みとなる。
東南アジアの各都市で開か
れている夜市。台南市でも市
内最大の花園夜市は、多い時
で約400店舗が連ねる。焼
きがきや小籠包、臭豆腐のほ
か、果物ソース、たこ焼き
といったグルメをはじめ、射
的、パチンコもあり家族連れ

地だけではなく、誘客にもひ
と役立つ観光の目玉となつて
いる。水戸市の使節団は夜市
のざわいに圧倒された。団
員の樋谷哲子さん(79)は「若
い人がとても多くて、熱気に
押された。迷子にならないだ
けでも大変なぐらい。あのパ

員の樋谷哲子さん(79)は「若
い人がとても多くて、熱気に
押された。迷子にならないだ
けでも大変なぐらい。あのパ

水戸商工会議所は本年度、
実験的事業として海外販売支
援研究会をつくり、日本の商
品展が頻繁に開催されている
△先細りの危機感

△年末以降も出展

商議所、商機探し誘客図る

台湾にまず目を向けた。商品
とともに水戸の飲食店やホテ
ル、観光を案内したパンフレ
ットも見てもらい、誘客につ
なげる試みだ。

事業の背景は国内の高齢化
社会で生産人口が減少する中
で、先細りする市場への危機
感だ。水戸山翠商事の高野健
治代表取締役は「台湾だけで
なく、欧米や豪州を含めて今、
発信しなくては間に合わない」と方説する。

研究会は「アウトバウンド
インバウンド調査事業」と
題して10月17～25日、水戸市
内4社(水戸山翠商事、要建
設、タツミ理化、駿河屋)の
商品を首都・台北市の百貨店
でブースを設けて販売。それ
ぞれアンコウの金針のもと、

水戸市の使節団にも参加し
た要建設の高野賢社長は台南
市との友好協定締結をチャン
スとみる。「台南市は土浦市
や那珂市とも結び、これから
大きな交流の波が起きた。一
気呵成に準備を進めたい」と、
思案を巡らせていく。

台湾での事業展開について話
し合つ水戸商工会議所の研究会



12月3日に開いた反省会で
は、販売を委託した要建設の
子会社から売れ行き、現地の
客層を聞き取りした。金飯の
もとは、もとを使つたおにぎ
りを実演販売したところ、後
日買ひ求める人が現れた。し
かし、購入にはなかなか至ら
ない商品もあった。研究会は
年末から年明けに台南市の百
貨店でもブースを設けること
から、価格設定や商品仕様の
見直しも行った。

水戸市の使節団にも参加し
た要建設の高野賢社長は台南
市との友好協定締結をチャン
スとみる。「台南市は土浦市
や那珂市とも結び、これから
大きな交流の波が起きた。一
気呵成に準備を進めたい」と、
思案を巡らせていく。

桜と小説 交流の架け橋



日台友好の桜に祈りをささげる藤本真
大佳織(中央左) 水戸市酒門町

物語は林百貨店など実在の建築物も舞台となり、恋愛要素が担当しました

▽飛虎将軍の導き

(おわり)
（この連載は水戸支社・小島

民間のつながり 期待の声

道路となる見込み。水戸市国際交流協会は年度内に同市備前町の市国際交流センターの展示室を改装して台南市のアースを設ける予定で、水戸街についても紹介する方針だ。新設され、廟から約800メートル離れた位置で南北数百メートルといつも民間の交流を進めた」と期待感を示す。

折しも、11月には飛虎将軍こと杉浦茂峰兵曹長を主人公にした小説「君と共に空へ飛ぶ」が発刊された。3月に台湾で出版された「展翅」の日本語版で、著者の菅野茂さん(72)は頻繁に台湾を訪れるところから、飛虎将軍廟を訪問中の使節団とも接触していく。

物語は林百貨店など実在の建築物も舞台となり、恋愛要素が担当しました

水戸市千波町の千波公園少年の森と、同市酒門町の善量寺に、昭和天皇が皇太子時代の1923年、台湾で植樹した桜の苗木が植えられている。桜を通じて日本と台湾の友好促進に尽力する「日台国際桜交流会」(植樹当時は日本友好桜通り文化交流会)の活動による植樹で、経緯を

記した石碑も建てられた。善量寺では重要文化財「聖徳太子立像」のすぐ近くで育てた。使節団にも参加した藤本貫大住職は「千波公園の桜と

水戸市と台南市の友好協定締結を記したことに注目している。台湾の有力紙「中国時報」も台南版で報道。水戸街は、台湾南部版で写真入りで報じた。別の有力紙「自由時報」も赤字の見出しで目立たせた。中国時報は「水戸黄門」や催楽團、納豆にも触れて水戸を紹介した。

水戸街は飛虎将軍廟のある同市安南区で開発中の地域に

新設され、廟からは約800メートル離れた位置で南北数百メートル

水戸と台南
友好都市締結
使節団員の声から

■ 5 ■

記した石碑も建てられた。

名付けられたことに注目して

水戸市と台南市の友好協定締結を報じた台湾の新聞2紙の紙面。「水戸街」にも触れていた

面。

台湾の有力紙「中国時報」も赤字の見出しで目立たせた。中国時報は「水戸黄門」や催楽團、納豆にも触れて水戸を紹介した。

水戸街は飛虎将軍廟のある同市安南区で開発中の地域に新設され、廟からは約800メートル離れた位置で南北数百メートル

飛虎將軍廟結緣 安南區設日本水戶街

〔記者洪瑞琴／台南報導〕台南與日本茨城縣水戶市因「飛虎將軍」結緣，兩市昨天正式締結為友誼市。未來飛虎將軍廟所在的安南區，也將會有一條「水戶街」，位在怡安果菜市場附近的第十二期怡中市地，將成為台南城市外交重劃區，將成為台南城市外交的首例。

水戶市長高橋靖與議長大津亮一，昨率團到訪台南，並與市長黃偉哲簽署「台南市與水戶市」市締盟的最佳大禮。飛虎將軍廟位在安南區，主祀出身日本水戶市的海軍飛官未來合作更加順利。

〔記者洪瑞琴／台南報導〕台南與日本茨城縣水戶市因「飛虎將軍」結緣，兩市昨天正式締結為友誼市。未來飛虎將軍廟所在的安南區，也將會有一條「水戶街」，位在怡安果菜市場附近的第十二期怡中市地，將成為台南城市外交重劃區，將成為台南城市外交的首例。

水戶市長高橋靖與議長大津亮一，昨率團到訪台南，並與市長黃偉哲簽署「台南市與水戶市」市締盟的最佳大禮。飛虎將軍廟位在安南區，主祀出身日本水戶市的海軍飛官未來合作更加順利。

〔記者洪瑞琴／台南報導〕台

戶市促進友好交流協定書」。

黃偉哲表示，台南與水戶市

因飛虎將軍廟結緣，今年適逢

念其犧牲義舉，當地居民特地

建廟祭祀，這樣的淵源成為台

南與水戶的交流橋梁。

第三次到訪台南的高橋靖表

示，締盟日期十一月廿二日是

日本的「好夫妻之日」，在這

天締盟象徵著兩市關係就像夫

妻一樣長長久久。他也前往飛

虎將軍廟參拜，祈求庇佑兩市

未來合作更加順利。

2024年11月23日 中國時報

與日締盟 安南區將出現水戶街



洪榮志／台南報導

日本茨城縣水戶市長高橋信與議長大津亮一22日率領該市府會及市民團一行72人拜訪台南市政府，選舉市長黃偉哲簽署促進友好交流協定書，正式締結為友誼市。未來共同攜手推動歷史、文化、體育等領域的交流合作。黃偉哲表示，他已致書公文，未來安南區將出現一條「水戶街」，紀念兩市友誼。

市府指出，水戶市位於日本茨城縣中部，為茨城縣廳所在地，該市以「水戶黃門」（水戶藩主別稱）、日本3大名園之一「偕樂園」及鶴卷「水戶繪豆」聞名。由於台南市安南區的飛虎將軍廟，主祀二戰末捨身保護在地居民、水戶出身的日本海軍少尉飛官杉浦茂峰，此番渊源也成為台南與水戶的交流橋梁。

黃偉哲表示，台南市與水戶市因飛虎將軍廟結緣。兩市學生在體育活動也有交流，雙方擁有深厚的友誼基礎。今年適逢台南400、兩府安寧不僅是雙方情誼的里程碑，也為台

南的城市外交歷史留下重要一筆。

黃偉哲強調，為紀念彼此的友誼，他已於21日致書公文，未來飛虎將軍廟所在的安南區將出現一條新路道，並命名為「水戶街」，成為兩市締盟的大禮。

今年第3度到訪台南的高橋靖

洪榮志／台南報導

認為，繪豆正好是日本的「好夫妻之日」，在這一天締盟也象徵兩市的關係就像夫妻一樣長長，像模大便用台南蜜芒來作曲，並命名為「水戶街」，成為兩市締盟的大禮。

高橋靖也承諾，將繼續牽頭

水戶市全力推動與台南的交流

，像模大便用台南蜜芒來作曲，並命名為「水戶街」，成為兩市締盟的大禮。

高橋靖也承諾，將繼續牽頭

水戶市全力推動與台南的交流

，像模大便用台南蜜芒來作曲，並命名為「水戶街」，成為兩市締盟的大禮。

高橋靖也承諾，將繼續牽頭

水戶市全力推動與台南的交流

，像模大便用台南蜜芒來作曲，並命名為「水戶街」，成為兩市締盟的大禮。



城市交流

台南市長黃偉哲（中）22日與日本茨城縣水戶市市長高橋靖（右）簽署促進

友好交流協定書，正式締結為友誼市。（市府提供／洪榮志台南清真）

台南市との交流の歩み

水戸市出身者が
つながりのきっかけに

「飛虎将軍」として台南市でまつら
れていた「杉浦茂峰」氏が、水戸市出
身であったことをきっかけとして、
台南市との交流が始まりました。

これまで、友好交流使節団の台南
市への訪問、台湾南部大地震の義援
金の送付のほか、台南市の関係者が、
飛虎将軍の里帰りのために米水する
など、さまざまな交流が行われてき
ました。

令和6(2024)年11月には、台
南市と友好交流都市協定の締結を予
定しており、これからも、交流の継
が続いていきます。



◀詳細は
こちら



飛虎将軍廟



平成28年、ご神体
とともに水戸へ里
帰り。生家跡地な
どを訪れたほか、
神輿にご神体を乗
せて中心市街地を
巡りました。



知っていますか?「飛虎將軍」

台湾の人々を守るために、自分の命を投げ出した
戦闘機パイロット

昭和19(1944)年、米軍機が台南に来襲した。上空で米軍を
迎え撃つも撃墜され、杉浦茂峰氏の戦闘機も被弾して出火。機
体爆発が迫る危機に見舞われた。下には集落が広がっている。

「そのまま墜落すれば、民間人に大きな被害が出る——」

杉浦茂峰氏は、集落への墜落を避けようと、戦闘機の機首を
上げ、上昇態勢をとった。その後、住民のいない畑の中に落ち
て戦死した。

この自らの命も顧みない行動が台湾の人々から尊崇を集め、
「飛虎將軍」として尊敬されました。「飛虎」は戦闘機を意味し、
「將軍」は杉浦茂峰氏への尊称です。

昭和46(1971)年に杉浦茂峰氏をまつるために祠を建設し、平
成5(1993)年には廟に建て直されました。現在も、地元の守り
神として地元住民により手厚くまつられ、廟は多くの旅行者が
訪れるスポットとなっています。



片部文子さん 田川莉紗さん 葉美慧さん
台中市出身 台北市出身 台北市出身
来日して40年 来日して37年 来日して30年

茨城台湾総会の皆さんに

台南市について
お聞きしました!

Q

台南市と水戸市の
似ている部分は?

たくさんの歴史がある点が似
ていると思います。
水戸市にも史跡が多くあります
が、台南市にも、史跡がたく

台南市には、おいしい食べ物
がたくさんあります。特に、そ
の日の朝仕入れた新鮮な牛肉を
スープの中に入れた「牛、じる」と
おすすめ。あと、「ちまき」もお
すすめです。台湾の南北で味が
違うのですが、台南市の中
は、ほかの地域と比べると甘い
ので、日本人の口にも合うと思
います。

Q

台南市のおすすめ
食べ物は?

特集 未来に羽ばたく
友好交流の紹介

台湾について
学んでみませんか
パネル展～台湾の伝統と今～

台湾の旅行での見どころや、変化する台湾の今を紹介します。

期間▶8月17日(土)～9月8日(日)

場所▶市国際交流センター(備前町)

料金▶無料

使節団の参加者を
募集します

台南市との友好交流都市協定の締結をするため、使節団を派遣します。台南市役所への表敬訪問・調印式への参加や、市民同士の交流活動、台南市の文化・行政視察、史跡見学などを行います。

期間▶11月21日(木)～24日(日)(4日間)

対象▶本人または家族が、応募時点で

市内に居住している方など

定員▶40名(定員になり次第締切り)

料金▶約185,000円(うち60,000円を市

国際交流協会が負担) ※燃油サーチャージの変動などにより、料金が変わることがあります。

申込・問合せ▶8月8日(木)～30日(金)

(必着)に、参加申込書に記入し、必要書類を添えて、直接または郵送で、水戸市国際交流協会(〒310-0024備前町6-59、☎221-1800)へ ※参加申込書は、市国際交流協会、文化交流課、市民センター、同協会ホームページで入手できます。



都市交流は、人と人が心を通わせ合う交流の積み重ねです。

市では、これからも海外諸都市との交流を推進し、友好交流の紹介を紹介していきます。

子ども・若者が将来、未来に躍動し、世界へ羽ばたいていきますように…。



こども・若者の交流

ドッジボールをとおした
スポーツ交流

台南市と水戸市の小学生が、お互いのまちを行き来しながら、スポーツをとおした交流活動を続けています。コロナ禍において一時中断されました。が、令和5(2023)年から再開し、ドッジボールの交流試合をはじめ、歴史的な名所・旧跡の訪問や食、習慣などの体験を通じて、文化の違いを学び、理解しながら、友情を深めています。

給食で台湾産のフルーツを提供

市内の学校給食で、台湾産のバナナやパインアップルが提供され、食を通じた交流を行っています。



台南市の小学生を招待して行われた、ドッジボールの試合



給食で提供された台湾バナナ。1年かりてじっくり成長させてから収穫するので、味や香りが濃いのが特徴。

Q 市民の方にメッセージ
をお願いします

台南市と水戸市が友好交流都市になるので、台湾について知つてもいい、そしてぜひ台湾に遊びに行ってほしいです。また、台湾だけでなく、いろいろな国へ行って、文化を知り、たくさんのことにチャレンジしてみてください！

さんあります。1653年にオランダ人が防衛拠点として建て、そのままの風貌がほぼ保たれている「赤崁楼」や、1624年にオランダ人が建設し、その後、時代によってさまざまな変遷を遂げてきた「安平古堡」などが有名です。

台南市と友好交流都市の 協定を締結しました



本市は、国際親善姉妹都市のアナハイム市や、友好交流都市の重慶市と都市間交流に取組んできました。

この度、台南市と友好交流都市を締結するため、11月21日～24日の日程で、水戸市長を団長とした、市民、市議会議員で構成する総勢71名の友好交流都市締結使節団が、台南市を訪問しました。

22日には締結式が行われ、高橋市長と大津議長、どうしてこう台南市長が、「水戸市と台南市の友好交流推進に関する協定書」に調印しました。

こうして、両市は、友好交流都市として、新たな一步をスタートし、こどもたちの教育・スポーツ・観光など、さまざまな分野で交流を図っていきます。



友好交流都市の締結

締結式は、台南市庁舎で行われ、使節団員全員が参加。庁舎内の友好都市を紹介した回廊を歩くと、すでに水戸市の名と市章が印字されたパネルが提示されていました。

会場では、黄市長が団員一人一人の席に出向いて挨拶を交わされ、会場全体が和やかな雰囲気の中、締結式が進行しました。

式典の最後には、締結を記念し、^{ひ て しょくぐん}飛虎將軍廟がある安南区に新設される道路を「水戸街」と命名することが発表されるなど、台南市からの温かい歓迎に、参加した団員は感銘を受けていました。



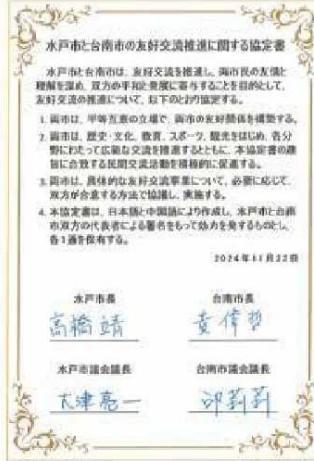
▲締結式の様子



▲パネルに刻まれた市章



▲団員に挨拶する黄市長



▲調印した協定書



▲飛虎將軍廟での撮影

使節団の観察

使節団は、締結式に参加したほか、飛虎將軍廟の参拝、日本人技術者が建設した烏山頭ダムや国立台湾歴史博物館の観察など、台南市の歴史や文化に触れ、理解を深めました。



▲国立台湾歴史博物館

台南市との友好交流のきっかけとなった杉浦茂峰氏

- 杉浦茂峰氏は、水戸市出身で、五軒小学校などを卒業しています。本市では、五軒町にあった生家の跡地(旧茨城県信用組合農林水産部ビル西側)にパネルを設置し、杉浦氏が台南市の皆さんに飛虎將軍として手厚く祀られていることなどを紹介しています。

詳細は[こちら](#)⇒



令和6年度 台南市友好交流都市締結使節団派遣 募 集 要 項

1 目 的

国際交流推進事業の一環として、台南市(台湾)との友好交流都市の協定を締結するため、水戸市より使節団を派遣する。台南市との相互理解と友好親善を深め、両市民間の交流を促進する。

2 主 催

水戸市、公益財団法人水戸市国際交流協会

3 期 間

令和6年11月21日(木)～11月24日(日) (4日間)

4 訪問先

台南市(台湾)

5 募集人数

40人(先着順)

6 活動概要

(1) 台南市での活動

- ① 台南市役所への表敬訪問及び調印式等への参加
- ② 市民間の交流活動
- ③ 台南市の文化・行政視察、史跡見学など

(2) 事前研修(結団式) (渡航説明会を含む)

令和6年10月22日(火)18:30～ 場所:水戸市役所(本庁舎2階大会議室)にて

(3) 事後研修(解団式)

令和6年12月25日(水)18:30～ 場所:水戸市役所(本庁舎2階大会議室)にて

7 応募資格

原則として、次のすべての要件を満たす方とする。

- (1) 本人または家族が、応募時点で水戸市に居住している方
- (2) 国際交流に関心を持ち、友好親善に努めたい方
- (3) 健康で協調性に富み、実施計画に従って規律ある団体行動ができる方
- (4) 事前・事後研修を含めて全日程参加できる方
- (5) 帰国後もこの経験を生かし、本市の実施する国際交流推進事業に積極的に参加できる方

8 応募方法

(1) 必要書類

- ・参加申込書
- ・証明写真(パスポートサイズ 4.5×3.5cm)
- ・パスポートのカラーコピー(A4 サイズ) ※ある方のみ

(2) 申込期間

令和 6 年 8 月 8 日(木)～ 8 月 30 日(金) ※郵送の場合は締切日必着

所定の参加申込書に必要事項を記入のうえ、上記期間内に、水戸市国際交流協会 まで持参又は郵送で、お申込みください(FAX 不可)。期間内でも定員になり次第、締め切ります。参加申込書は当協会ホームページからもダウンロードできます。

【申込先】公益財団法人水戸市国際交流協会

〒310-0024 水戸市備前町 6-59 水戸市国際交流センター内

(午前 9 時～午後 9 時) ※毎週月曜日、8/13(火)は休館

電話:029-221-1800 ホームページ:<https://www.mitoic.or.jp>

9 参加費用

約 185,000 円 (うち 60,000 円を協会が負担します)

※最終参加人数や燃油サーチャージの変動により、費用が多少変動する場合が あります。

[参加費用に含まれる主なもの]

航空運賃(エコノミークラス)及びバスなどの料金、観光料金、宿泊料金、
日程記載の食事代、燃油サーチャージ、空港税など

[参加費用に含まれない主なもの]

渡航手続関係諸費用、個人的性質の諸費用、超過手荷物運搬料金、一人部屋 追加料金、ビジネスクラス追加料金(※)、海外旅行保険(任意保険)掛金など

※ビジネスクラス料金は、申込み時期によって異なります。詳細については、 お問い合わせください。

[部屋割りについて]

お一人でのお申し込みで相部屋希望の方は、調整が付けば相部屋となりますが、できない場合はシングル利用となり、追加料金(25,500 円)をいただきます。

10 派遣の取消し

- (1) 派遣決定後であっても、応募資格の虚偽報告及び不適格と認められる行為や事実があった場合は派遣を取消すことがあります。その際に発生する取消料は本人負担となります。
- (2) 出発後の取消しは団長が行います。その際の損害賠償等の責任は、取消された 本人が負うこととなります。

11 取消料

旅行の取消しについては、旅行業約款に基づき、該当者に取消料が発生します。

旅行契約解除の時期	企画料金・取消料
旅行開始日の前日から起算してさかのぼって 30 日目 から 3 日目までに解除する場合	旅行代金の 20%
旅行開始日の前々日から旅行開始までに解除する場合	旅行代金の 50%
旅行開始後の解除および無連絡不参加の場合	旅行代金の 100%

12 その他

- (1) 申込書に記入された個人情報(氏名、住所、電話番号など)は、本事業における運送、宿泊機関等の予約手続き及び申込者との連絡等に限り利用させていただきます。
- (2) 未成年者は、保護者同伴の場合のみご参加いただけます。
- (3) 本事業は、参加者の安全を最優先としますので、今後の国際情勢によっては、変更 または中止する場合があります。

13 旅行取扱い

本事業における旅行部分については、当協会と取扱旅行会社の受注型企画旅行契約により実施します。

14 お問合せ先

◆本事業に関すること

公益財団法人水戸市国際交流協会(開館時間:午前 9 時~午後 9 時)

※毎週月曜日休館(月曜日が祝日の場合は翌平日も休館)

〒310-0024 水戸市備前町 6-59 水戸市国際交流センター内

TEL:029-221-1800 URL:<https://www.mitoic.or.jp>

◆旅行取扱に関すること

近畿日本ツーリスト株式会社 水戸支店 (観光庁長官登録旅行業第 2053 号)

〒310-0015 水戸市宮町 2-4-3 小林ビル 2 階

TEL:029-225-1015 FAX:029-231-7841



主催：水戸市／公益財団法人水戸市国際交流協会



台南市友好交流都市 締結使節団 団員募集

水戸市は、台南市と今年11月に友好交流都市の協定を締結するため使節団を派遣します。

台南市は台湾南部の古都。古くは1624年にオランダが台南に拠点を築き、中国で明の滅亡後、鄭成功が清に対して明国復興の運動の拠点としたのも台南でした。本市出身の旧海軍兵曹長だった杉浦茂峰氏が、台

南で「飛虎將軍」として廟に祀られており、水戸市に縁のある地でもあります。

台南の旧城市は自分の足で歩いて回れる、路地裏までがどこか懐かしさのある市街です。

ぜひ、この機会に台南を訪れ、その歴史や文化、南部の人々の温かさに触れてみてください。



期間： 2024年11月21日(木)～11月24日(日) 4日間

募集人員： 40人(先着順) *詳しくは団員募集要項をご覧ください

申し込み受付期間： 2024年8月8日(木)～8月30日(金)

募集要項、参加申込書は、当協会(水戸市国際交流センター) / 市役所(文化交流課) / 市民センター等にあります。

また当協会HP、こちらの「台南」の二次元コードからもダウンロードできます。




公益財団法人
水戸市国際交流協会
Mito City International Association

【お問合せ】

TEL 029-221-1800 FAX 029-221-5793

mcia@mito.ne.jp

〒310-0024 水戸市備前町6-59

Google Map →



Event
Information



令和 6 年度
台南市友好交流都市締結使節団派遣報告書

発行日 令和 7 年 3 月

公益財団法人水戸市国際交流協会
水戸市備前町 6-59 TEL029-221-1800